



千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

令和 5 年度（2023 年度） 事業報告書

令和 6（2024）年 3 月

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
1. 理念、ビジョン、ミッション	4
2. 組織	5
3. 専門職連携教育研究センター規程	9
4. 令和5年度(2023年度)事業計画	11
III. センターの取り組みと成果	14
1. 教育	14
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	14
2) 新たな IPE プログラムの開発	19
3) FD の充実	21
2. 実践・社会貢献	22
1) IPE 研究拠点からの発信	22
2) IPW の促進	25
3) 政策提言	27
3. 研究	27
1) IPE 研究の進化	27
4. 組織運営	28
1) 予算と人材の確保	28
2) PDCA サイクル(plan-do-check-act cycle)に基づく組織運営	28
3) IPERC の将来構想	29
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	30
1. 令和5年度(2023年度)外部評価委員会の開催	30
2. 外部評価委員による講評	30
3. 外部評価委員の講評のまとめ	32
V. 資料	33
(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績	33
(資料2) IPERC 主催研修受講者	39
(資料3) 地域貢献事業実績	41
(資料4) IPERC 特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金(いずれも継続)	48
(資料5) IPERC 外部からの寄付金及び委託費	48
(資料6) 研究業績	49

I. ごあいさつ

2023 年度を振り返ると、COVID-19 パンデミックの影響からの組織的な回復が促進され、新しいステージに移行した実感を持つことのできた 1 年間であったと思います。

今年も無事に IPERC 事業報告書を書くことができます。関係する皆様のご支援ご協力のたまものであると心より感謝申し上げます。

2023 年 4 月に下井俊典特任准教授が IPERC に就任し、新たな体制でスタートしました。また佐野朋子事務補佐員が IPERC 担当としてフルタイム勤務となり、体制の強化がされました。このことで、亥鼻 IPE ステップ 1、2、4 の多くのプログラムを対面に戻す際にも非常に円滑に進めることができました。COVID-19 の影響によるオンライン授業の経験を経て、コンテンツの整理ができ、対面で行ったほうが良い授業内容とオンラインを継続する必要のある授業内容が明確になったことは亥鼻 IPE の進化と言えます。また今年度は、工学部医工学科の学生が参加するステップ 1 の授業内容・方法について検討をスタートさせることができました。クリニカル IPE については、医学部附属病院の専門職のみなさまの多大なご協力により、昨年通りに実施することができました。

2023 年度は、専門職連携実践および教育に関する大学院科目の充実も成果として特筆すべきことだと思います。また、IPE 関連の海外交流プログラムの復活と発展が大学院科目の充実を促進したと思います。イギリス、オーストラリア、インド、台湾などの大学との交流が実際に展開されたのみならず、国内外からの招聘講演、教育講演なども増えています。

医学部附属病院においては、新入職員研修における IPE のブラッシュアップ、合同技術演習の実施などにとどまらず、現場の IPW の推進に貢献する多様な取り組みに参画しました。特に、病棟でのクリニカル IPE の発展に向けた新たな試みを試行錯誤した 1 年間でもありました。

11 月に行われた日本保健医療福祉連携教育学会学術集会では、学術集会への多大な貢献を評価され、学術集会長賞を受賞しました。このことは IPERC 一同大変にうれしい出来事でした。

最後に、6 月に、南江堂よりこれからの IPE ガイドブックが出版され、関連動画も公開されました。これから IPE を始めるもしくはブラッシュアップしていこうとするときに役立つようなガイドブックとしてご活用いただければ大変にありがたく存じます。次はこれからの IPCP ガイドを出版しようと考えています。

2023 年度も、「ごあいさつ」のページに書ききれないほどの活動を支えてくださいました、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

2024 年 3 月 31 日
センター長 酒井 郁子

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 (2015) 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 (2015) 年 2 月 23 日、平成 27 年度(2015 年度)第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（1）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（2）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

（3）研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（4）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

2. 組織

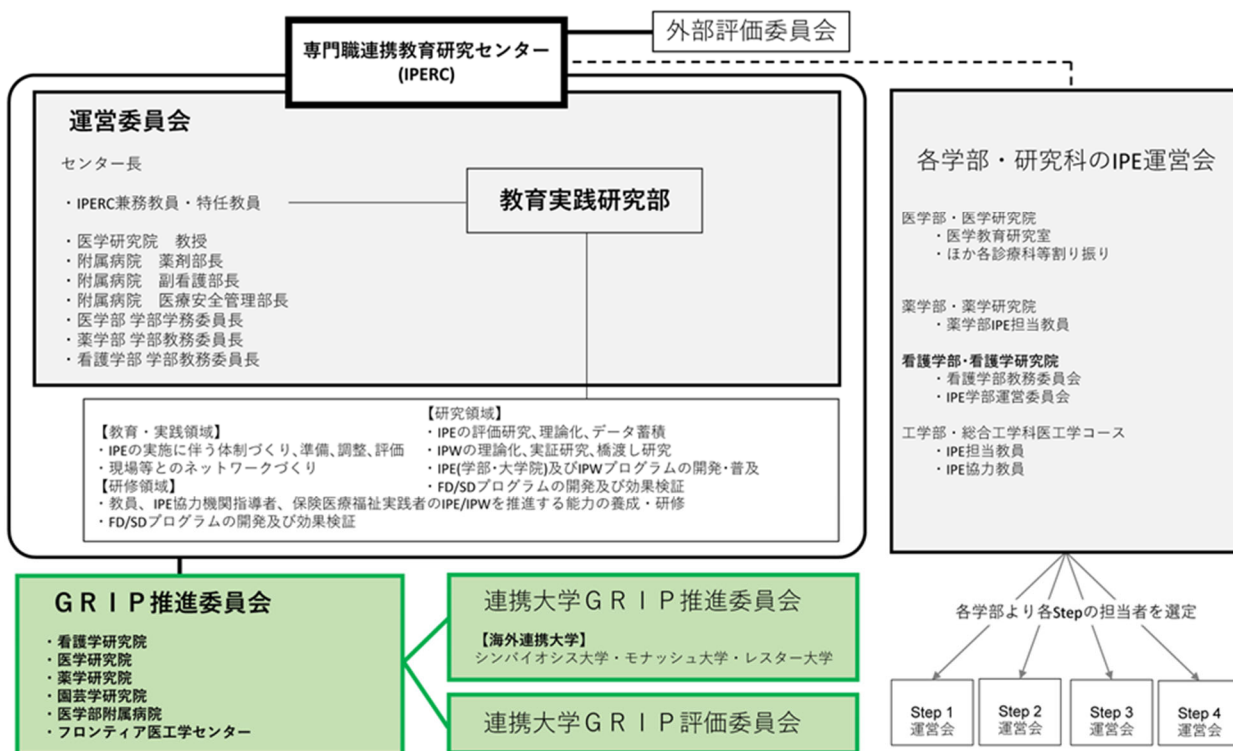
当センターは、看護学研究院の附属機関として位置づけられている。

センター運営委員会は、第1号委員であるセンター長、第2号委員である医学部・看護学部・薬学部の教務担当委員長、その他センター長が必要と認めた第3号委員で構成される。

また、2022年度の文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つとして、グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成（Global & Regional Interprofessional Plus Program: GRIP Program）が採択され、令和4年10月に GRIP 推進委員会を発足し、当センターに位置づけた。

下記に組織図を示した。

I P E R C と 亥 鼻 I P E の 組 織 図



センターには「教育実践研究部会」をおき、研究、教育・実践、および研修活動として、図中に示した活動を行っている。「教育実践研究部」の構成者は、特任教員および関係各学部の兼務教員である。

「教育実践研究部会」は、3 学部すなわち看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。

また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。

センターの事務所管は、看護学部事務部総務第三係が担当している。

令和4年10月に発足した GRIP の事業は、GRIP 推進委員会を中心に企画、運営を行っている。

令和5年度(2023年度) センター組織構成者名簿

<IPERC 運営委員会>

第1号委員(センター長)

- ・酒井 郁子(看護学研究院 教授)

第2号委員(医学部・看護学部・薬学部の教務担当委員長) 五十音順

- ・伊藤 彰一(医学部 学部学務委員長)
- ・池崎 澄江(看護学部 学部教務委員長)
- ・上原 知也(薬学部 学部教務委員長)

第3号委員(その他センター長が必要と認めた者) 五十音順

(あて職による委員) 五十音順

- ・石井伊都子(医学部附属病院 薬剤部長)
- ・大塚 将之(医学研究院 教授・医学部附属病院 副病院長)
- ・菊田 直美(医学部附属病院 副看護部長)
- ・相馬 孝博(医学部附属病院 特任教授・副病院長・医療安全管理部長)

(教育実践研究部:兼務委員) 五十音順

- ・朝比奈真由美(医学部附属病院 特任教授)
- ・飯野 理恵(看護学部 学部教務副委員長)
- ・石川 雅之(薬学研究院 助教)
- ・井出 成美(看護学研究院 准教授)
- ・伊藤 彰一(医学研究院 教授) ※再掲
- ・上原 知也(薬学研究院 教授) ※再掲
- ・臼井いづみ(医学部附属病院 特任助教)
- ・内海 尊雄(薬学研究院 助教)
- ・笠井 大(医学研究院 講師)
- ・鈴木 紀行(薬学研究院 准教授)
- ・清水 郁夫(医学研究院 特任教授)
- ・関根 祐子(薬学研究院 教授)
- ・平田慎之介(フロンティア医工学センター 准教授)
- ・野崎 章子(看護学研究院 講師)
- ・眞嶋 朋子(看護学研究院 教授)

(特任教員) 五十音順

- ・天井 響子(看護学研究院 特任准教授)
- ・下井 俊典(看護学研究院 特任准教授)
- ・孫 佳茹(看護学研究院 特任講師)

(プロジェクト研究員)

- ・山本 武志(札幌医科大学 准教授)

(GRIP 推進室員) 五十音順

- ・天井 響子(看護学研究院 特任准教授) ※再掲
- ・野崎 章子(看護学研究院 講師) ※再掲

<GRIP 推進委員会>

(看護学研究院) 五十音順

- ・天井 響子 (看護学研究院 特任准教授) ※再掲
- ・飯田貴映子 (看護学研究院 准教授)
- ・池崎 澄江 (看護学研究院 教授) ※再掲
- ・石橋みゆき (看護学研究院 准教授)
- ・井出 成美 (看護学研究院 准教授) ※再掲
- ・カスノブ タビット (看護学研究院 助教)
- ・酒井 郁子 (看護学研究院 教授) ※再掲
- ・下井 俊典 (看護学研究院 特任准教授) ※再掲
- ・孫 佳茹 (看護学研究院 特任講師) ※再掲
- ・仲井 あや (看護学研究院 助教)
- ・野崎 章子 (看護学研究院 講師) ※再掲

(医学研究院) 五十音順

- ・伊藤 彰一 (医学研究院 教授) ※再掲
- ・笠井 大 (医学研究院 講師) ※再掲
- ・鋪野 紀好 (医学研究院 特任准教授)
- ・山内かつ代 (医学研究院 特任教授)

(医学部附属病院)

- ・朝比奈真由美 (医学部附属病院 特任教授) ※再掲

(薬学研究院) 五十音順

- ・石川 雅之 (薬学研究院 助教) ※再掲
- ・伊藤 素行 (薬学部 教授) ※再掲
- ・関根 祐子 (薬学研究院 教授) ※再掲

(フロンティア医工学センター)

- ・平田慎之介 (フロンティア医工学センター 准教授) ※再掲

(園芸学研究院)

- ・岩崎 寛 (園芸学研究院 教授)

<事務補佐員> 五十音順

- ・高野 佳奈
- ・佐野 朋子 (R5.9 月末まで)
- ・富永 嘉子 (R5.4 月末日まで, 11 月～)
- ・長谷川容佳 (R4.4 月末日まで)

<技術補佐員>

- ・佐野 朋子 (R5.10 月～) ※再掲

<外部評価委員> 五十音順

- ・新井 利民（立正大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授）
- ・大山 良子（社会福祉法人 りべるたす）
- ・川崎 由紀（千葉県 健康福祉部健康づくり支援課）
- ・川島 啓二（京都産業大学 共通教育推進機構 教授・初年次教育センター長）
- ・渡邊 秀臣（高崎健康福祉大学 保健医療学部 学部長）

3. 専門職連携教育研究センター規程

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター規程は、令和3年3月に看護学研究院教授会で決定した。

(趣旨)

第1条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、社会のニーズに対応する体系的な専門職連携教育・連携実践を推進するためのプログラムを開発・普及するとともに、我が国及びアジア圏における専門職連携に関する教育、実践及び研究を発展・進化させることを目的とする。

(教育実践研究部)

第3条 センターに、教育実践研究部を置く。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教
- 三 その他の職員

(センター長)

第5条 センター長は、看護学研究院長の推薦により学長が選考する。

2 センター長の任期は、年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

(センター運営委員会)

第6条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第7条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関する重要事項
- 二 その他運営委員会が必要と認めた事項

(組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長
- 三 その他センター長が必要と認めた者

(委員長)

第9条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第10条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第 11 条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第 12 条 センターに、外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 13 条 センターの事務は、亥鼻地区事務部総務課において処理する。

(雑則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

2 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター規程（平成 27 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

4. 令和5年度(2023年度)事業計画

●中長期5か年計画 令和2年～令和6年 (2020～2024)

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、それぞれの Step を精査し必要なプログラムの開発を行う。それをもって効果的な「亥鼻 IPE」(Step1～4)の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

グローバル IPE をプログラム化し、学生間の国際的・学際的相互学習の場を開発する。海外の多様な IPE プログラムの経験値を蓄積し、カリキュラムデザイン研究を発展させる。大学院での IPE プログラムを開発する。この中で災害時の専門職連携実践を進化させるための教育プログラムの開発・普及をする。

(3) FD の充実

FD のしくみを確立させ、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

(4) 受益者の参加による IPE の発展

患者・サービス利用者等、医療・保健・福祉・介護サービスの受益者が亥鼻 IPE に参加する仕組みを開発する。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

センターで開発した IPE プログラムや研修プログラムを書籍や教材といったプロダクトとして作成し、社会に発信する。またプログラム開発に使用した資料やデータベースの発信・共有をはかる。

(2) IPW の促進

専門職連携実践能力の向上を目指した IPW 研修の質を高め、継続して提供する。また、実践現場の課題に即した IPW コーディネーターの人材育成に関する研修プログラムを確立する。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

学生の IPE 体験を蓄積し、IPE の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、IPE の成果に関する国際比較研究に取り組む。その過程で IPE 研究者を育成する。

(2) IPW 研究の進化

様々な保健医療福祉介護機関における実践者の IPW 体験や、患者・サービス利用者の満足度や健康アウトカムへの影響を蓄積し、IPW のアウトカム研究に資する理論開発を行う。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

新たな事業費や研究助成金の確保を迫及し、発展的な事業展開ができるようにする。人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用など、幅広く IPE・IPW に関わる研究や実務を担当できる人材の確保を図る。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

(3) IPERC の将来構想

ビジョンとして掲げている「専門職連携学」の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入、副専攻の設置などを検討する。

●令和5年度(2023年度) 事業計画

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

- ①形成的評価を行い教育プログラムの課題の明確化と改善を行う。
- ②メディア授業を効果的に取り入れた授業の工夫と改善を行う。
- ③CIPE の試行を実施し必修化を検討する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

- ①グローバル IPE のプログラム化を行う。
- ②大学院における IPE プログラムの実施と評価

(3) FD の充実

- ①Step1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施する。そのための教材開発を行う。
- ②亥鼻 FD プロジェクトを継続して実施する。
- ③亥鼻 IPE の人材バンクの組織化を図る。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

- ①国内外の大学や専門学校における IPE カリキュラムの開発と運営に関して、IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や、コンサルテーション活動を通じ、IPERC が蓄積したカリキュラムマネジメントおよび FD の知見を広く周知する。
- ②IPE プログラムや研修プログラムについて書籍や教材、資料、データベースの発信に努める。

(2) IPW の促進

- ①IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修を実施する。
- ②大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。
- ③大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。
- ④千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施する。
- ⑤保健医療福祉各種機関からの要請に応え、様々な現場での多職種協働実戦能力向上のための研修に協力する。

(3) 政策提言

- ①専門職連携教育・専門職連携実践に関わる制度やしくみについて、提言していく。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

- ①医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポートを行う。
- ②IPE における学生の体験や現場の実践者の IPW 体験を蓄積し、IPW、IPE の理論化に取り組む
- ③研究成果を発信する。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

- ①研修事業による自己収入を図る
- ②新たな事業費や研究助成金などの確保を図る
- ③人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用などの可能性を検討する

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

- ①年間事業計画の策定と実施、評価を行う
- ②外部評価委員会による評価を受け運営に反映させる
- ③運営委員会を開催する
- ④教育実践研究部会を開催する

(3) IPERC 将来構想の具現化

- ①IPERC を含む総合教育棟の概算要求
- ②GRIP 採択に伴う博士前期課程副専攻国際実践学の開始に伴い、IPE 関連の新設科目の実施評価を行う。

Ⅲ. センターの取り組みと成果

「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」4つの柱に沿って中長期目標を見出しとして、令和5年度(2023年度)の取り組みと成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の目的は、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人の育成」である。

亥鼻 IPE の学習到達目標は、以下の表のとおりである。貢献力・調整力に大別された専門職連携実践能力を段階的な学習プログラムの中で身につけることが目標となっている。

表 専門職連携実践能力と Step ごとの学習到達目標

	Step1	Step2	Step3	Step4
専門職連携実践能力	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力を身につける。Step1の終了時、学生は以下のことができる。	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力を身につける。Step2の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力を身につける。Step3の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。Step4の終了時、学生は以下のことができる。
I. チームの目標達成のための行動	チームの取り組みと成果を説明できる	チームの目的達成に向け、自分の行動を調整できる	チームの目標達成のために、チーム内の対立を解決できる	チームの目標達成のために、チーム状況を評価し、自己の実践を決定できる
II. チーム運営のスキル	チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる	チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる	対立及び対立の解決について説明でき、チームで生じている対立に気づくことができる	チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる
III. チームの凝集性を高める態度	チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる	他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる	患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について、チームメンバーと率直に話し合うことができる	チームメンバーおよびかわる多様な専門職と、良好な人間関係のもと、話しやすい雰囲気を作ることができる
IV. 患者を尊重した治療・ケアの提供	患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる	医療福祉サービスおよび行われているケアを患者・サービス利用者の自律および自立の観点から説明できる	複数の問題解決案の中から、患者・サービス利用者からの意思を尊重した最も良い方法を、チームとして選択できる	患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画を、チームとして立案できる
V. プロフェッショナルとしての態度・信念	専門職として成長するために何が必要かを考えることができる	実際に行われているケアの根拠と理由を(説明を受けて)理解できる	学生の立場から専門職としてあるべき姿を考えることができる	専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識を退院計画に反映できる
VI. 専門職としての役割遂行	チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる	医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる	学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいて、チームメンバーに意見を述べることができる	自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を学生の立場から説明できる

以下、令和5年度(2023年度)の実績を述べる。

(1) 形成的評価による教育プログラムの課題の明確化と改善

【Step1～4 共通】

〔運営〕

令和5年度は、COVID-19の感染法上5類に引き下げられたことにより、Step1・2・4については、講義はオンライン、グループワークは対面形式での実施を再開した。Step1～4までの参加学生数、協力教員数などのデータを(資料1)に示す。

- ・ 学生のリフレクションシートの提出状況を把握しやすいよう、Moodle上における「リフレクションシート」の記入・提出の方法をアンケート・アクティブティ方式に変更した。この変更により、各ステップ数百人の受講者の回答内容がオンライン上で一覧表示できるようになった。学生の提出したリフレクションシートの確認作業の効率が向上、教員の負担が軽減した。
- ・ Step1に関しては、1回目のグループワークの内容について改善を図った。昨年度の授業評価で、初回の授業のグループワークについて、その後のグループ活動に関係するものに変えるべ

きという指摘があった。そこで、その後の話し合いをする時の心構えを全員で考えることで、グループメンバーの関係を促進し、言いにくい障壁を最小限にするということを狙いとして、「ユニットのルールをつくる」というワークに変更した。学生のリフレクションシートから、当該ワークについて、活動目標の相談や課題について責任をもってやる、困ったときに気軽に助けを求められる雰囲気づくりが最重要、工学部生が参加しているため、敬語禁止など、様々な角度からグループ活動についての意見を出し合い、さらに打ち解けることができたとの記述が多くあった。来年度もこの変更を維持していきたい。

[学習効果]

- ・本年度および昨年度の学生からの満足度評価（授業評価アンケート「この科目の内容に満足している」項）
- ・学部間比較では、令和 5（2023）年度は、Step1・3・4 で医学部生が高く、相対的に薬・工学部生が低かった（ $p < .05$ ）。
令和 4（2022）年度は、同様の傾向が Step1～3 に認められた（ $p < .05$ ）。
- ・年度間比較では、Step1・2・4 は前年度との間に満足度に差は認められなかった。Step3 のみ満足度が向上（ $p < .01$ ）したため、学部別に分析したところ、医学部生のみ向上していた（ $p < .01$ ）。
- ・学生によるグループワークに対する自己評価
- ・グループワークがオンライン形式（2021・22 年度）よりも対面形式（2018・19・23 年度）の方が、学生によるグループワークに対する自己評価が高かった（ $p < .05$ ）。
- ・授業アンケートでも、「オンラインのときはやりにくかったが、対面になり活動しやすくなり、改善すべき点は思いつかない」との記述もあった。
- ・本結果は、研究報告としてとりまとめ、第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会にて発表した（3-1）-(3)項）。

[次年度に向けての改善課題]

今年度の授業評価アンケートから、改善すべき箇所について、学生より以下の指摘があり、次年度の事業に向けて改善を検討していきたい。

【Step1】

- ・工学部生の満足度について
昨年度の授業評価で「工学部、医療連携に関する言及が少ない」という回答があり、今年度も「ふれあい体験実習や、インタビューを通し、医師、薬剤師、看護師はどのような役割を果たすか比較的分かりやすかった一方、医工学に焦点があてられる事は少なかった」という回答があった。医療分野と工学分野の連携に焦点を当てた授業内容が不足していることが考えられる。医工学の学生も関わりやすいよう、授業コンテンツの点検が必要である。
- ・事前学習の負担について
昨年度、事前学習の分量が多いという回答があり、今年度も「事前学習の負担が大きい」という回答があった。来年度は事前学習の分量の見直しについても検討したい。
- ・オンデマンド開催の回において学生同士が対面で集まることの必要性を感じにくいとの回答があった。特定の回について、対面開催のメリットについて見直す必要がある。
- ・回によって、グループワークの時間が足りなかったり、逆に持て余してしまったりすることがあるとの意見があった。グループワークのタスクの設計や適切な調整が行われているか、確認する必要がある。
- ・会場の温度調節がうまくいかない・変更回数が多いという苦情があった。快適な学習環境の確保が次年度の課題として挙げられる。
- ・学習成果発表会については、スライド枚数・テーマの制限を緩和してほしい要望があった。学生が自分たちのアイディアを適切に表現するために基準設定の適切さについて要検討である。
- ・異なる教室の発表がみたい、ほかのグループの学習の成果を知りたいとの要望があり、共有の仕方を検討する。

【Step2】

- ・薬学部の学生から、試験期間と最終レポートの提出期間が重なるので、提出期間を検討してほしいという要望が数件あった。特別な事情があるかどうか、確認の上検討する必要がある。
- ・教員同士の連携不足についての指摘や、教員にもっとグループワークへの介入の要望が複数あった。FD 等で対応していく。
- ・第3・4回の専門職インタビューのオンラインについて、アクセス環境の整備の課題が残っている。

【Step3】

- ・集中講義のため、拘束時間が長く作業負担が大きい、課題提出までの期間が短くとの指摘があった。集中講義のため、短期間内でのタスクの達成が求められていることに課題がある。学習成果を達成するには、適切な時間の確保を検討する必要がある。
- ・はじめの自己紹介で取り上げる話題について要望があった。「指定している話す内容で、ニックネームを入れない方がいいと思う。部活や趣味、高校時代の部活など、話す話題が多いものを取り入れるべき」という内容だった。学生の関心に合わせた話題の提供についての改善が必要と思われる。
- ・成果発表会の自分の発表について教員からの評価開示の要望があった。最終の成果発表についてのフィードバックの仕方を再検討する必要がある。

【Step4】

Step1 からオンデマンド・同時双方向オンラインで受講した学年のため、対面のほうが話しやすかったといった感想を学生の授業評価アンケートから読み取れている。

- ・1日目と3日目の患者面接の2回目までの準備時間が足りない、2日目のグループワークの時間が足りないという意見が複数あった。時間配分や患者面接の準備ワークの分量について検討する必要がある。
- ・医学部棟において看護学部生の着替え場所の用意、事前学習の、看護学部生のみ退院計画を見たことがあるため、学部間での知識の量に差が出ている、グループ内で薬学部の参加人数が少ない。
- ・教員の学習成果発表会におけるフィードバックが適切ではないと感じる学生がいた。学生の学びに寄与するようなフィードバックの仕方についてFDで対応していく。

(2) 対面形式の授業再開とハイブリッド型授業の工夫と改善

【Step1～4 共通】

[授業運営の効率化と協力教員の負担軽減]

- ・令和元（2019）年以前の対面形式での授業は、各教室担当の協力教員が、統一マニュアルに沿って教室別に授業を運営していた。今年度より対面形式の授業が再開されたが、オンライン形式で蓄積したノウハウを活用し、授業の進行説明を IPERC から各会場への同時双方向リアルタイム配信とした。
このことにより、各会場の授業の進行状況を統一することができ、かつ教室運営の協力教員の負担を軽減することができた。
- ・各授業回の使用教室・ファシリテーターの配置などの環境整備などに関する情報共有を図り、プログラム運営を円滑にするため、グランドシートを作成し IPERC 教職員間で共有した。
- ・学習成果発表会の評価結果を評価担当教員が直接オンライン上で入力できるシステムを構築し、当該作業の記入漏れと提出の負担の軽減を図り、IPERC 側の回収・集計の効率向上を図った。
- ・各教室の機材準備においては、次年度の教室運営にも寄与するよう、AV 機材やスピーカーの接続方法のマニュアルを作成する。
- ・Step3 を除き、対面再開のため、受講者に名札を付けてもらい、出欠をとる業務が発生した。名札の配布と回収システムを作り、教室内の教員の運営負担を減らした。

【Step1・2】

- ・音響設備のよい教室の確保のため、予定していた薬学部 14 号教室を亥鼻同窓会館に会場を変更した。また、5 月から 7 月末にかけて、日中気温の上昇変化が激しいため、7 月に亥鼻同窓会館から医学部に教室を変更した。授業アンケートでも同様の指摘があり、次年度からは同窓会館よりも看護学部や医学部の教室を中心に使用する計画である。

【Step1】

- ・「当事者の体験を聞く回」では、学生を各会場に集め、Zoom で当事者の体験を聞いてもらったため、オンラインの接続ツールは Zoom ウェビナーから Zoom ミーティングに切り替えることができた。各会場に 180 度カメラを導入することにより、教室前方のスクリーンに各会場の様子が同時に映りだされ、他受講者同士の連帯感が高まっていたと感じた。各会場から学生が前に出て、お互いに顔が見える形で講演者と質疑応答を行った。他会場にいる学生が質問する様子もスクリーン上で共有され、学生同士のインタラク션을図ることができたと考える。
- ・患者インタビューは Microsoft Teams を使い、オンラインで行ったが、グループワークは対面で行った。個室の確保・限られた小部屋の交代利用時の移動・案内など、T A を動員して教学楼内で静かに実施するよう工夫した。
- ・Step1 では、「病院での患者インタビュー」を 2 施設で病院職員の協力のもと Microsoft Teams を準備したノート PC を病棟に持参し、実施した。スピーカーマイクを使用することで、学生の声が、患者さんにとって聞きやすく、また、接続補助の教員にも聞こえ、スムーズに運営できた。

【Step2】

- ・第 2 回の専門職へのオンライン・インタビューの準備のセッションで、各グループがこれまで一緒に組んだことのないグループと一緒に準備作業を進めるタスクを 2 回ほど行う必要があった。授業の開講形式がオンライン形式から対面に変更したことで学生が移動の問題が生じるころだったが、いつもの教室内におけるグループの配置位置をデザインしたことにより、1 回目は対面で、2 回目はオンライン上という形で学生が教室を移動することなく準備作業を進めることができた。かつ、2 回目のオンライン上でのグループワークでは、通信テストの機能も並行させることができた。
- ・昨年度までは専門職へのオンライン・インタビューでの学生の学びをインタビューーに報告（フィードバック）する作業を、IPERC 教員が集約しており、かなりの作業量となっていた。今年度は、同報告を「インタビューーへのフィードバック」として学生のグループワークの 1 つとし、IPERC 教員はそのグループワーク成果の簡単な内容・表現の確認とすることで、作業の効率化を図り報告の適時性を高めた。
同報告を送付後、複数の専門職から感謝の言葉をいただいたことから、当初懸念された学生の表現の稚拙さからくる問題は少ないと考えられる。
- ・オンライン・インタビューにご協力いただいた 18 施設 19 名の専門職から、学習成果発表会の視聴希望があった。その専門職の方々にご担当いただいた学生グループの発表が視聴していただけるよう、学生の発表スケジュールを可能な限り調整した。

【Step3】

- ・Step3 は冬期開講による感染症対策も考慮し、オンライン形式にて開講した。
- ・初日のグループワークにおいて、学生からのワークシート確認要請が短時間に集中し、ロジスティクスが過負荷となる場面があった。来年度はスムーズかつ教員負担の少ない手続きを再考する。

【Step4】

- ・今年度は模擬患者面接も、グループワークも対面で実施できた。
- ・医学部新棟に運営本部を設置し、グループ学習室を患者面接室に変えることで、教育施設の利用を一か所に集約することができ、効率的な運営が図れた。
- ・専門職とのコンサルテーションはオンライン同時双方向形式で実施した。コンサルタント側の便宜を図るため、医学部グループ学習室を一部アクセス場所として確保した。

- ・専門職とのコンサルテーションでは、学生が自分たちでコンサルタント日程を直接入力できるオンラインフォームを構築し、コンサルの時間を意識させる目的と同時に、過密の日程の中での運営側の負担軽減にもつながり、学生の記入ミスもリアルタイムで確認することができ、実際にはスムーズに運営につながった。

(3) CIPE（クリニカル IPE）の試行および CIPE の必修化の道筋の明確化

[概要]

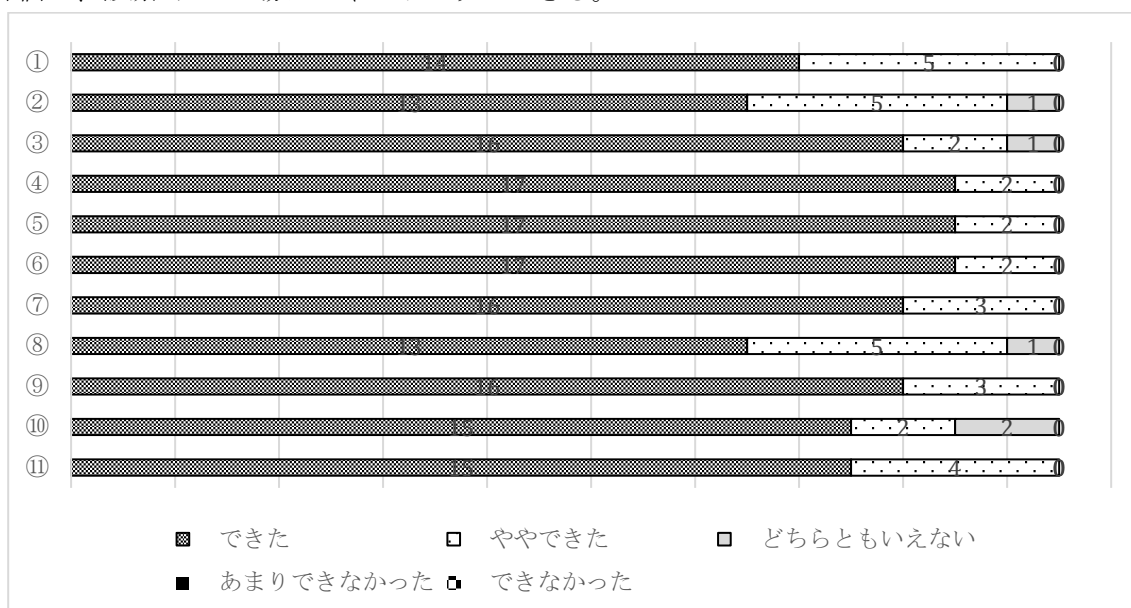
- ・附属病院 5 診療科 5 病棟※において、同年 7 月 18～28 日の日程で診療参加型 IPE（CIPE）を開講した。当該実習には、合計 7 グループ 23 名（医学部 5 年生 7 名、看護学部 4 年生 9 名、薬学部 5 年生 7 名）が参加し、医師 6 名、看護師 6 名+α、薬剤師 13 名が指導に協力した。

[学習成果]

- ・自己評価アンケートでは、11 項目（下記参照）について 4 段階で回答を求めた。19 名の学生から回答があった（回答率 86.2%）。「できた」、「ややできた」を合わせた回答が、どの項目も 9 割以上であった。

【自己評価アンケート項目】

- ① 患者の目標（チームの目標）達成のために、チーム状況を評価することができる。
- ② 診療・ケアの現場の状況を把握して自己の実践を行うことができる。
- ③ 自己の実践をチームメンバーにフィードバックできる。
- ④ チームメンバーの専門性の特徴や限界を理解することができる。
- ⑤ チームメンバーの専門性や特徴の限界に基づいて、チームメンバー間で情報共有と意思決定をしながらチーム活動ができる。
- ⑥ チームメンバーおよび診療・ケアの場の多様な専門職と良好な人間関係を築くことができる。
- ⑦ 患者中心の診療・ケアについて、チームメンバーと建設的に話し合うことができる。
- ⑧ フィールドの受け持ち患者に適した診療・ケア計画を、患者の意思を尊重しながらチームで立案することができる。
- ⑨ チームで受け持つ患者の診療・ケア計画の立案について、専門職および教員の支援を受けて取り組むことができる。
- ⑩ プロフェッショナルとしての自分の課題を明確にできる。
- ⑪ 自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を、学生の立場から実施・評価し、診療・ケアの場にフィードバックできる。



- ・自由記述では、「今までの Step4 までの経験を基に意見交換を活発にしながら学習できていた。それぞれが実習を経験してから望んでいる CIPE のため、それぞれの専門性がさらに活かしていた」といった肯定的な記述が多かった。改善点としては「コンサルテーションのしやすい環境」や「他の職種（臨床工学技士など）の職務内容を学べるとよい」、「期間が短かった」などの意見があった。
- ・『臨床実習・臨地実習におけるクリニカル IPE 拡充のためのモデル病棟/地域病院構築（通称「出会って IPE」）』
 亥鼻 IPE の CIPE の発展形として、学内外の医療系学生への IPE が日常的、継続的に行われるための教育体制を構築するためのモデル病棟(大学病院、地域病院)を構築するプロジェクトが始動した。

2) 新たな IPE プログラムの開発

(1) グローバル IPE のプログラム化

① 世界展開力強化事業

令和 4（2023）年度、本学の GRIP Program（「グローバル地域ケア IPE プラス創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Plus Program）」が文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の 1 つとして採択され、同年 10 月から始動した。本令和 5（2023）年度は、同プログラムを軸に、グローバル IPE プログラムの開発と展開を加速させた。

A) GRIP

- ・この事業の目的は、SDGs の開発目標 3「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHO が提唱する Universal Health Coverage「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために、地域ケアを創生する人材を育成することである。
- ・インド、オーストラリア、イギリスを相手国とし、地域ケア創生に関わる全学部および全大学院が参加し、国際的な「地域ケア創生ネットワーク」を構築することを目指すものである。医療系だけでなく、多分野の学部学生、大学院生を対象とした国際的な IPE プログラムを含んだプログラムである。

B) BMX

- ・本学、関西大学（代表校）、東北大学の 3 大学合同事業「Blended Mobility Project (BMX) で生み出す『Society 5.0 人材』の育成とそのインフラの創出」が、文部科学省の令和 5（2023）年度の「大学の世界展開力強化事業・米国等との大学間交流形成支援」の 1 つとして採択された。
- ・当該事業では、「自身の社会的・環境的正義を強く意識した上で言語、文化、価値観の異なる他者と協働し、専門的知見に基づいた実効性のある提案で、持続可能な社会の発展と世界平和に寄与できる次世代グローバルリーダーを育成」することが目的となっている。
- ・千葉大学看護学部としては、当該事業を COIL の後継事業に位置付け、5 年間のアラバマ大学、シンシナティ大学との看護学生同士の交換留学体制を構築する。
- ・IPERC としては、国際交流大学の拡充を念頭に、当該事業とグローバル IPE の連続性を模索するため、令和 6（2024）年 9 月の学生派遣のための調査として、同年 1 月にシンシナティ大学との打ち合わせに下井特任准教授が同行した。

C) その他

- ・GRIP の後継事業として、4 か国間交換留学制度の創設に向けた取り組みを計画し、Anderson 教授（レスター大学、CAIPE 副理事長）、El-Awaisi 教授（カタール大学）、Nyoni 教授（南アフリカ、フリー・ステート大学）とのキックオフ・ミーティングを開催した（12 月 8 日）。
- ・また、同取り組みを JAIPE との情報共有ならびに協働させて、国外 IPE・IPC 団体への情報発信などに連続させることを計画している。

② 亥鼻 IPE の外国人留学生の受け入れ

- ・ 7 月 10 日から 21 日まで、千葉大学看護学部と台北医学大学看護学部の交換留学プログラムで、台北医学大学看護学部から学生 3 名（2 年生 2 名、3 年生 1 名）が千葉大学看護学部を訪問した。そのプログラムの一環として、亥鼻 IPE への授業参加が組み込まれている。そのため、7 月 11 日 10～11 時、孫特任講師が IPERC でまず 3 名の留学生に向けて亥鼻 IPE について紹介するプレゼンを行った。7 月 21 日の午後、Step2 の最終回の学習成果発表会が行われ、台北医学大学の 3 名の学部生が傍聴し、最優秀発表に投票を行った。IPERC のほうでは、学生の発表資料を事前に英訳し、提供したことで、留学生が発表内容を理解し、日本人学生と同様の投票結果となった。
- ・ 孫特任講師が群馬大学 IPE トレーニングコースで講演した際、インドネシア、ベトナム、モンゴルからの受講者から、亥鼻 IPE Step3（オンラインコース）への見学希望が示された。この講演は、コロナパンデミック以降トレーニングコースが初めての対面形式で開催されたおかげで、受講者と直接交流する貴重な機会となっている。そのため令和 6（2024）年度より、当該教育機関からのオンライン形式の見学者受け入れの準備を進める予定である。

③ 台湾大学との IPE プログラム開発

- ・ 令和 6（2024）年 2 月 16 日、国立台湾大学看護学部と Zoom ミーティングを開催し、両学部の提携プログラムの可能性、IPE プログラムの開発の可能性、学生と教員の国際交流の可能性について協議した。同年 3 月 7 日に酒井センター長・朝比奈兼務委員/特任教授、孫特任講師が実地訪問し、国立台湾大学の病院を見学した。先方のご厚意により、シミュレーションセンター・緩和病棟・医学部歴史館・遠隔医療部門を訪問することができた。IPE の推進状況についてのプレゼンテーションまで伺うことができ、両学部間の IPE プログラム開発の可能性について、台湾側の現状確認ができた。今後日本側の状況も紹介し、両方の協議を進める土台を構築していきたい。

④ 台北医学大学との IPE プログラム開発

- ・ 2023 年度、台北医学大学看護学部と進めた両校の学生交流プログラムの試行事業として、7 月に 2 週間、先方の学生を 3 名受け入れた。千葉大学看護学部生を令和 6 年（2024）年 3 月 4 日～15 日の日程で、先方に 2 名派遣し、台湾の看護事情を中心に学んだ。2 名のうち、1 名は千葉大学看護学研究院の院生で、先方には院生の学習ニーズに合わせ、災害看護のプログラムを用意してもらった。3 月 6 日に酒井センター長一行が台湾を訪問し、台北医学大学看護学部教授莊宇慧先生のご尽力により、台北医学大学附属病院のスマートホスピタルに関する取り組みを見学し、サービ斯拉ーニングに関するプレゼンテーションで台北医学大学側の取組みについて、より詳細に知るようになった。シミュレーションセンター開発の IPE 教材も体験できて、シミュレーション IPE とサービ斯拉ーニングの両分野においてプログラム開発を台北医学大学と協議の準備が整う段階に入った。

（2）大学院における IPE プログラムの開発

① 「専門職連携実践論」「専門職連携教育論」

大学院看護学研究院の千葉大学大学院共通科目として位置づけられた「専門職連携実践論」「専門職連携教育論」を開講した。「専門職連携教育論」では、海外の IPE・IPC 関連の文献を読み、ディスカッションポイントをもって参加する討議形式の授業を持った。「専門職連携実践論」では、専門職連携の基礎的知識の教授と共に、IPC に活用できる連携スキルのオンライン演習を行った。

② 大学院副専攻プログラム

世界展開力強化事業 GRIP により大学院の副専攻プログラム「大学院国際実践教育」がスタートした。IPE 関連科目 3 単位を含む 8 単位の取得により大学院国際実践教育学の学位が授与される。

3) FD の充実

(1) 亥鼻 IPE のファシリテーター (FT) 研修の実施

- ・ Step1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施した。亥鼻 IPE プログラムは Step1 と Step2 を含め、全てオンライン (同時双方向型・オンデマンド型) にて実施した。実施に伴い FD 資料を改編した。
- ・ Step1、3、4 では、メールにて①教員説明資料、②FD 動画のリンク先を送付し、③適宜、担当教員の質疑に回答することで FD とした。
- ・ Step2 では、5 月 18 日 (火) 17:30～18:30 Zoom にて FD を開催した。出席者は 39 名 (主催側 IPERC4 名と薬学部教員 1 名含む) で、専門職は 34 名参加した。専門職の内訳は、附属病院関係者 16 名、外部実習機関実習担当者 18 名であった。欠席者へは、FD の実施内容を録画した動画を共有し、各自視聴するよう対応した。

(2) 亥鼻 FD プロジェクトの継続実施

- ・ 令和 6 (2024) 年 3 月 14 日 (木)、埼玉医科大学医学教育学の柴崎智美教授・米岡裕美准教授を講師として迎え、「連携実践における職種理解・キャラ化ワークショップの試み-」として、職種間の理解を促進するワークショップとそのファシリテーションについて講義とワークのオンライン開催を予定している。

(3) 亥鼻 IPE の人材バンクの組織化

- ・ IPERC 主催の IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や IPW ベーシック研修・IPW マネジメント研修などを通じて、IPE・IPW に高い関心を持つ人材が集まり、IPE・IPW の学習を継続し、スタディグループへの参加や、亥鼻 IPE の協力者としての参加があった。
- ・ 学内の教員の協力体制の組織化は、各学部でのルールに基づきシステム化されている。
- ・ 山本武志准教授 (札幌医科大学) が 6 月 1 日よりプロジェクト研究員となった。

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を推進してきた経験やそこから得られた知見を様々な形で発信し、日本のそして海外諸国の IPE の発展に寄与することを目的として、以下の事業に取り組んだ。

(1) IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修やコンサルテーション活動を通じた蓄積した知見の周知

① IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修

令和 5 年(2023 年)8 月 19 日(土)・11 月 23 日(木・祝)の 2 日間コースで、IPE カリキュラムマネジメント・授業開発研修を実施した。本研修は、医療保健福祉の専門職の養成に携わる教員が、専門職連携教育の実装に向けて必要なカリキュラムマネジメント能力および基礎的な授業開発を高めることを目的としている。(資料 2) のとおり 2 名の受講があった。全員に修了証書を発行した。

② 各大学・教育機関からの FD・講演・授業の依頼

A) 岐阜大学

- ・大学院医学系研究科医療者教育学専攻修士課程にて、下井特任准教授が Theme1「教育の多様性の広がり」内 Unit1「医療における多職種協働と地域連携」のファシリテーター、ならびに授業「IPC に必要な社会心理学理論と IPE に必要な学習理論」をオンライン形式にて担当した(4 月 27 日)。
- ・同大学(医学部)と、岐阜薬科大学(薬学部)、平成医療短期大学(看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法専攻・視機能療法専攻)、朝日大学(歯学部)、朝日大学歯科衛生士専門学校、岐阜市立女子短期大学(健康栄養学科)との共同授業「多職種メディカルケアチーム医療教育(Multidisciplinary Medical Care Team Education; MMeCTE)」に、下井特任准教授と笠井講師がファシリテーターとして参加した。
同授業は、各職種別の支援内容・方法をメンバー内で共有し、自・他職種の理解、チーム医療の必要性・重要性の理解を図るため、視聴覚教材を用いた模擬患者演習で、午前午後それぞれ 378 名(63 グループ)、370 名(62 グループ)、合計 748 名が受講した。

B) トルコの Semahat Arsel Nursing Education Practice and Research Center (SANERC)より、同センターが主催する「Interprofessional Education Workshop (7 月 27 日)」の講演依頼があり、下井特任准教授が「Interprofessional Education in Japan」として、本邦および千葉大学亥鼻 IPE の現状と課題についてオンライン形式にて講演した。同ワークショップには約 50 名の参加があった。

C) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校である、北海道旭川西高等学校の生徒 7 名(引率教員 1 名)が、「道外大学訪問研修」の 1 つとして千葉大学を訪問した(9 月 13 日)。亥鼻キャンパスでは、IPE や保健医療福祉領域への興味・関心を賦活することを目的として、「多様性を考えてみる」というテーマで簡単なグループワークを実施した。

D) 群馬大学 WHO センター協力記念誌寄稿

『群馬大学 WHO 協力センター設立 10 周年記念誌』の刊行に向け、IPERC の事業内容を紹介する原稿とメンバー全員の集合写真を寄稿した。

③ 学会での講演・シンポジウム

- ・第 55 回日本医学教育学会(令和 5 年令和 5 年 7 月 28 日・29 日長崎) 学会連携企画 2 シンポジウム「モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための多職種連携教育の設計」において、酒井センター長が座長を務めた。また井出准教授がシンポジストの

一人として「基礎教育で身につけるべき連携協働能力 IPE の哲学に基づく学習到達目標と学習方法」と題して発表した。

- ・ 酒井センター長が学術集会長を務める第 28 回日本老年看護学会学術集会（令和 5 年 6 月）日本保健医療福祉連携教育学会合同企画兼スポンサードセミナー「いまさら聞けない IPE のたいせつなこと・老年看護学との接点-」にて、講演者の一人として井出准教授が「看護学系教育機関における IPE の授業設計」と題して講演した（オンデマンド配信）。
- ・ 11 月 26 日、藤田医科大学にて開催された第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会の IPE パネルディスカッション「私が実践している多職種連携教育 ～うまくいっていること、困っていること～」にて、下井特任准教授が三好友美子教授（藤田医科大学保健衛生学部看護学科）と座長を務めた。加えてパネリストの 1 人としても登壇し、前職での経験と比較しながら千葉大学亥鼻 IPE の現状と課題を報告した。
- ・ 12 月 9 日・10 日に大宮ソニックシティにて開催された第 12 回日本理学療法教育学会学術大会にて、下井特任准教授が教育講演「学習科学を基にした多職種連携教育・IPE の実践例から考えるインストラクショナル・デザイン」というテーマで登壇し、千葉大学亥鼻 IPE の内容、およびその設計構造について講演した。

④ その他の講演・研修・コンサルテーション活動 （以下 4 件巻末資料参照）

- ・ 静岡県看護協会より依頼を受け、井出成美准教授が、専任教員養成講習会「看護教育方法論」の「専門職連携教育」の単元を担当した（8 月 28 日）
- ・ 公益財団法人テクノエイド協会が主催する「福祉用具プランナー管理指導者養成研修」（令和 5（2023）年度の受講者数 8 名、7 月 7 日）の授業「医学一般（専門職の役割と連携・協働のあり方）」を下井特任准教授が担当した。
- ・ 大内基司教授（看護学研究院生活創成看護学研究部門健康増進看護講座）が、第 7 回黒潮カンファレンス（7 月 22 日・23 日、ANA ホリディ・イン・リゾート宮崎）にて、「将来を見据えた多分野融合による老年学教育・『原点回帰』多職種連携を中心に-」というテーマでシンポジストとして登壇した。その中で千葉大学亥鼻 IPE を紹介・説明されたところ、参加者の中村正帆教授（東北医科薬科大学医学部薬理学）より、所属大学で計画している IPE の設計について問い合わせがあった。同問い合わせには、下井特任准教授が引き継いで対応した。
- ・ 松本暢平助教（千葉大学国際未来教育基幹）を介して全国視能訓練士学校協会より第 16 回教員研修会（8 月 23 日・24 日）の講師の依頼があった。下井特任准教授が講師を担当し、「学生を『巻き込む』授業をどう作るのか・教育設計理論に基づいた授業の設計-」というテーマで亥鼻 IPE の設計をモデルとして教育設計（インストラクショナル・デザイン）について解説し、グループワークを展開した。

（２）・IPE プログラムや研修プログラムについての書籍や教材、資料、データベースの発信

① 『これからの IPE ガイドブック』の上梓および Web セミナーの公開

- ・ IPERC の教員および国内の IPE 関係者による書籍『これからの IPE（専門職連携教育）ガイドブック』（南江堂）の執筆、編集・校正作業が完了し、2023 年 6 月に上梓された。
このガイドブックは、IPERC による亥鼻 IPE の取り組みを基にして、IPE の基本的な考え方と知識をまとめたテキストで、医療系専門職連携教育の基本及びカリキュラムの組み立てから演習・実習を効果的に進行させるための授業開発といった内容となっている。本書の出版を通じて現場の教員が困難を乗り越え、自信をもって IPE 教育を構築・推進できるようになることを目指している。
- ・ IPERC からは下記メンバーが編集者、執筆者となっている。
編集者：酒井センター長、井出准教授、朝比奈特任教授
執筆者（執筆順）：酒井センター長、下井特任准教授、井出准教授、関根教授、臼井特任助教、石井薬剤部長、石川助教、孫特任講師、山内特任教授、笠井講師、伊藤教授

- ・当ガイドブックの上梓と合わせて、南江堂 web セミナー『Get Smart IPE! -落とし穴の傾向と対策』(<https://www.nurshare.jp/article/detail/10502>)を作成し、公開した。
この web セミナーは、IPE の設計や実装で困難を感じている看護教員からの問いに、ガイドブック執筆者が答えながら、IPE の落とし穴（ピットフォール）とその対策を解説する内容になっている。

② ドクターメイト株式会社の「介護職向け D スタ事業」のための教材作り

- ・ドクターメイト株式会社は介護施設の医療課題に対応するオンライン医療相談と夜間オンコール代行を行う会社で、その事業の一環として「介護職向け D スタ事業」という介護職向け e-ラーニング教育サービスを提供している。当該 D スタ事業では、系統的・段階的なプログラムをベースに、介護・医療動画コンテンツを構築している。IPERC の井出准教授・臼井兼任教員/助教・孫特任講師が以下の動画コンテンツの制作に対応した。

井出准教授

- Lv1: 仕事上のコミュニケーション
- Lv1: カンファレンスの意義と種類
- Lv2: カンファレンス参加の心構えと準備
- Lv3: 仕事における対話の意味
- Lv5: カンファレンスのマネジメント

臼井特任教員

- Lv1: チームについて、チームで働くとは
- Lv2: ISBAR
- Lv3: ファシリテーションとは、ファシリテーションの多様なスタイル
- Lv3: 通常のカンファレンスの開催と周知の方法
- Lv4: アサーティブコミュニケーションとは、アサーティブに伝える
- Lv4: カンファレンスにおける対立の分析と解決
- Lv4: ファシリテーションのスキル

孫特任講師

- Lv1: カンファレンスとは何か
- Lv2: チームビルディングとは
- Lv3: チームビルディングの方法
- Lv4: チームビルディングのスキル
- Lv5: チームのマネジメント

③ 群馬大学より IPE トレーニングコースの講義依頼

- ・2023 年 8 月 23 日から 25 日まで実施された第 10 回群馬大学 IPE トレーニングコース（趣旨：西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース）の一環として、孫特任講師が 8 月 24 日（水）13:30～14:20 に講演を行った。「Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE」というタイトルで、2023 年度の最新実施状況も反映した上、玄鼻 IPE 全体の紹介および受講者のレポート分析という内容で行った。フィリピン・ベトナム・モンゴル・インドネシア・タイ・マレーシア・韓国、計 7 か国から専門職が参加した。

（3）日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）への協力

- ・酒井センター長が同学会副理事長、朝比奈特任教授・下井特任准教授が理事を務めている。
- ・第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会では IPERC より 3 演題発表（51 項参照）、ならびにシンポジウムへの座長・シンポジストとしての参加（53 頁参照）もあり、IPERC が第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会長賞を受賞した。
- ・国際的ネットワークである「IPE Global」、アジアの APIPEC（Asia Pacific Interprofessional Education and Collaboration Network）に対して、JAIPE は本邦を代表する IPE・IPC 学会としての発信・インパクトが少ないことが指摘されている。IPERC、千葉大学は GRIP、BMX を通じて国際展開力を有していることから、大学としてはもちろん、本邦の IPE・IPC 教育機関の代表として、JAIPE の国際発信力への提言と支援をしていく計画である。

2) IPW の促進

(1) IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の実施

[目的]

- ・ IPW ベーシック研修の目的：医療・保健・福祉・介護の各種機関で働く専門職連携を推進するための課題を持った実践者が、専門職連携実践の推進に必要な基礎的能力を高めることを目的とする。
- ・ IPW マネジメント研修の目的：医療保健福祉の実践現場で専門職連携を推進するための課題を持った指導的立場・管理的立場の者が、専門職連携実践の推進に必要なマネジメント能力をたかめることを目的とする。本研修において、医療と介護の連携やチーム医療が求められている日本の現状を踏まえ、実践の現場での IPW 推進に向けた現任者研修計画案あるいはマネジメント計画案を立案・実践・評価する。

[プログラム]

- ・ 【理論編】は e-learning システムを構築し、「専門職連携の基礎的知識」「チームについて」「対立の解決のアプローチ」の3つの講義動画を作成し、受講者が自己学習できるように整備した。
- ・ 【実践編】は、WHO の専門職連携実践能力の学習到達目標に沿って、下記 5 つのコースを設置し、プログラムを改善し、教材を整理した。
 - 1) 職種間の理解：他職種間でお互いの専門性や職務を理解し、協働ワークを通じて連携実践能力を習得する。
 - 2) チーム内の効果的なコミュニケーション：自身のコミュニケーションの傾向と課題を知り、適切な意見伝達スキルを習得する。
 - 3) チームワークの促進スキル：チームメンバーのチームへの貢献やチームビルディング、リーダーシップフォロワーシップの能力を高める。
 - 4) 多職種カンファレンス：多職種カンファレンスにおける基本動作を習得する。
 - 5) 対立の解決：専門職間や専門職と患者・利用者間で起こりうる対立の構造を理解し協調的な解決がはかれる解決の方法を学ぶ。

[学習成果]

- ・ 各研修の受講者は（資料2）のとおりである。本研修の受講者の学習ニーズをとらえるため、所属機関の種類・職種・所属先のある都道府県に分けて、受講者の状況を整理した。
- ・ IPW 実践編の実施直後のアンケートでは、とても満足 63.4%、満足 31.7%であった。

(2) 千葉大学医学部附属病院の新人研修や現任教育 IPE プログラムへの貢献

- ・ 4月3日(月)、医学部附属病院新人研修を、附属病院の総合医療教育研修センターおよび看護部と協働して実施した。IPERC は IPW の単元を担当した。
- ・ 8月2日(水)、総合医療教育研修センターの特定行為研修におけるチーム医療演習に協力し、情報伝達スキル、カンファレンスの基本動作、対立の解決のストラテジーについて演習を実施した。
- ・ 医師と看護師合同の採血演習に協力した。
- ・ 10月25日(水)、中途採用者研修にて IPW をテーマにワークショップを実施した。
- ・ 令和 5 (2023) 年から総合医療教育研修センター・キャリア開発室が統合することとなり、IPERC は当該組織と協働して、病院全体の IPW プログラムの開発を行うこととなった。

(3) 千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施

[目的] 認知症の人と家族の支援に携わる医療・介護・福祉等の専門職同士が、認知症に関わる現状や知識・情報を共有するとともに、お互いの役割や活動内容等を理解し、連携をとり協働しやすい関係を作ることである。

[概要] 令和 5 年 12 月 23 日(土)と令和 6 年 1 月 28 日(日)の 2 回実施し、104 名が参加した。

[プログラム]

- 1) オリエンテーション
- 2) 講義「認知症の人の理解とケア」
- 3) 講義「専門職連携の基礎知識」
- 4) ワークショップ「アイスブレイク私の仕事紹介」
- 5) ワークショップ「効果的な情報伝達スキル」
- 6) ワークショップ「多職種カンファレンス」

[講師] 酒井センター長、諏訪看護学研究院長・教授、井出准教授、下井特任准教授、孫特任講師

[成果と課題]

- ・ COVID-19 が感染法上 5 類に引き下げられたことに伴い、本年度は対面形式にて開講した
- ・ 受講者を対象とした事後アンケート結果より、満足度については「あまり満足ではない」と「不満足」の評価は無く、高い満足度が得られた。また、他職種との対話、ネットワーク構築・情報交換がその場でできたことについて肯定的な意見があった。
- ・ 一方で対面形式となったことで遠方からの参加者の減少、当日キャンセルの増加につながっていることが推察された。このため、今後、開始時間、出張講義を含めた開催場所、開催形式（いずれか 1 日をオンライン形式化）などを検討する予定である。

(4) 保健医療福祉各種機関での多職種協働実践能力向上のための研修への協力

- ・ IPERC 教員が実施した社会貢献活動を（資料 3）に示す。
- ・ 東京都・千葉県・静岡県・岩手県・青森県・宮城県・神奈川県など都道府県看護協会など職能団体の主催する研修への協力依頼が多くあった。

(5) 産官学民連携

① 「うたせ認知症を考える会」との連携

- ・ 「うたせ認知症を考える会」は、2015 年 10 月に打瀬地区（幕張ベイタウン）地域住民による自発的なボランティア団体として発足し、認知症の人と家族が普通に暮らせる街づくりにつなげたいと、活動が始まった。認知症と診断され困惑している人、戸惑いながら介護している人、介護の苦悩を乗り越えてきた体験者や寄り添う仲間たち、介護の専門職が世話人となって、「まずは居場所づくり！」とくベイタウンかふえ>の開設準備を始めた。
- ・ 千葉大学看護学部 of 交換留学プログラムのフィールド先の一つとして、海外からの留学生を受け入れている。2023 年 7 月 12 日に台北医学大学看護学部の 3 名の学生の認知症カフェへの見学・活動参加を企画・実施していただいた。2024 年 3 月にシンシナティ大学の学生の受け入れも協力していただいた。日本の地域包括ケアシステムの実情や認知症カフェの活動内容を体験して学ぶことで、学生からとてもよかったという声があった。
- ・ 打瀬認知症カフェの住民から千葉大学看護学部の教員との連携をリビング・ラボとして発展させていきたいという要望から、2 月 2 日と 3 日に、井出准教授・孫特任講師が情報収集のため、2023 年度第 1 回未来社会共創センターリビングラボ研究交流会（ウェビナー）に参加した。また、2 月 17 日に「幕張ベイ・グリスロプラス住民フォーラム」に参加した。

② 墨田区プロトタイプ実証実験支援事業への学術指導

墨田区のプロトタイプ実証実験支援事業とは、それらの解決策を有する区内外のスタートアップ企業と連携して墨田区地域の課題を解決するため、解決策の効果を検証する事業のこと。令和 5（2023）年度、同事業に採択された「No.4 マッチングサービス等の活用による要配慮者に対する救護体制の充実」（IoT 端末を用いた要配慮者の災害時の避難体制の充実を図る計画、株式会社 VALUECARE）に対し、千葉大学の産学連携の一環として下井特任准教授が同事業に対する学術指導を担当した。

具体的な学術指導内容としては、同事業の KPI 尺度の作成、神経難病患者およびその家族に対する個別避難計画の策定支援、避難訓練時の心身ケアに関するアドバイスなどがある。

3) 政策提言

(1) 健康関連専門職の基礎教育課程における専門職連携教育に関わる科目の開設や制度化への提言

- ・医療者教育の変化のなかで、医学教育・看護学教育・薬学教育のコアカリキュラムに IPE が位置づけられ、多くの大学等でカリキュラム改定の際に IPE が実装されつつあることを確認している。今後、カリキュラム評価の時期に入ることが予想され、カリキュラム評価にむけた提言のために準備が必要であると認識している。IPE ガイドブックの出版や、学会のシンポジウムやセミナー等で、カリキュラム評価に関しても発信を行った。
- ・8月から11月にかけて、一般社団法人日本看護系大学協議会（JANPU）が文部科学省より受託して「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定に向けて調査研究」が行われた。酒井センター長が、調査結果の分析過程で依頼を受け、専門職連携実践コンピテンシーに関わる内容について専門家としての意見を提言した。

3. 研究

1) IPE 研究の進化

(1) 医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート

- ・酒井センター長が定期的あるいは不定期に、各学部の教員の IPE 研究の助言指導を行い、論文公表への支援を行った。
- ・他大学の教員も参画し、IPE 研究、IPW 研究に関するスタディ・ミーティングを月 2 回のペースで実施した。
- ・IPERC 運営教員および IPERC 特任教員の科学研究費補助金獲得は、合計 7 件である。一覧を（資料 4）に示した。

(2) 学生の IPE 体験や実践者の IPW 体験の蓄積と IPW, IPE の理論化

- ・上記（1）のスタディ・ミーティングの中で IPE や IPW の理論・実践・評価について学習する機会を持った。
- ・COVID-19 による IPE への影響について海外の動向を探った他、第 15 回日本保健医療福祉連携学会において、2018 年に行った看護学部のカリキュラム改変に伴う看護学部生の Step3 受講年次の変更が IPE の学習成果に与えた影響や Step2 の学習コンテンツの変更が学習成果に与えた影響について計 2 本の研究発表を行なった。
- ・IPERC が主導する「IPE プログラムの教育評価に関する研究」の一環として、2022 年度の Step1～4、そしてクリニカル IPE の受講生を対象とした研究データを収集した。亥鼻 IPE の教育プログラムの教育評価を行い、IPE プログラムの学習効果と教育方法の改善点を明確にするための取り組みをさらに進めた。

(3) 研究成果の発信

- ・〔原著および査読つき論文〕5 本、〔査読なし論文〕3 本、〔学会発表〕12 本、〔シンポジウム招聘〕19 回 であった。詳細は（資料 6）に示した。
- ・令和 5（2023）年度は、コロナ禍の終息傾向（5 類相当の取り扱い）となったため、Step1・2・4 のグループワークを対面形式に戻して開講した。コロナ禍下のオンライン形式、コロナ禍前後の対面形式の両開講形式にて、亥鼻 IPE の学習成果データを蓄積することができた。そこで、第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会にて、それらデータを活用した 3 演題を発表した。
- ・IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響 - 千葉大学 亥鼻 IPE Step1 における検討
井出成美、下井俊典、孫佳茹、臼井いづみ、飯野理恵、平田慎之介、関根祐子、朝比奈真由美、笠井大、酒井郁子
- ・IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響 - 千葉大学 亥鼻 IPE Step2 における検討
孫佳茹、下井俊典、井出成美、臼井いづみ、関根祐子、朝比奈真由美、飯野理恵、笠井大、酒井郁子

- ・低年次 IPE プログラムにおける学習者のグループワークに対する自己評価の変化 千葉大学亥鼻 IPE- Step1-2 の開講形式のパターン別分析
下井俊典、孫佳茹、井出成美、臼井いづみ、飯野理恵、関根祐子、朝比奈真由美、笠井大、酒井郁子
- ・IPE・IPC の国際学会である ATBH (All Together Better Health)にて、本学 GRIP の取り組みを発表した。
- ・Amai, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., ..., Sakai, I. (2023, November 6-8). GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program. The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health, Doha, Qatar.

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

(1) 研修事業による自己収入の獲得

- ・本年度は、研修事業の受講料にて 97 万円の自己収入を得た。

(2) 新たな事業費や研究助成金の確保

- ・IPERC 特任教員・兼務教員が IPE/IPW や専門職教育に関わる研究費として獲得し継続中の研究助成金を（資料 4）に示した。
- ・法人からの寄付金、IPERC への事業委託費、特任教員への事業委託費、タムス岡本記念財団からの助成金を（資料 5）に示す。

(3) クロスアポイントメント制度の活用などの検討による人材確保

- ・昨年度より継続して亥鼻高機能化構想の基金により特任教員 2 名の人件費を得られている。
- ・世界展開力強化事業 GRIP 経費により特任教員 1 名、事務補佐員 1 名の人件費を得られている。
- ・世界展開力強化事業 BMX 経費により、事務補佐員の人件費を得られた。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

(1) 年間事業計画の策定と実施、評価

- ・第 2 期 5 か年計画（令和 2～6 年）の 4 年度目として、令和 5 年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ運営委員会に報告した。

(2) 外部評価委員会による評価と運営への反映

- ・第 2 期 5 か年計画（令和 2～6 年）の 4 年度目として、令和 5 年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ外部評価委員会に報告し評価を得る予定である。

(3) 運営委員会の開催

- ・オンラインによる会議を 3 回実施した。
第 1 回令和 5 年 5 月 16 日（Zoom によるオンライン会議）
第 2 回令和 5 年 10 月 3 日（Zoom によるオンライン会議）
第 3 回令和 6 年 2 月 6 日（Zoom によるオンライン会議）

(4) 教育実践研究部会の開催

- ・令和 6 年度の亥鼻 IPE 日程および授業方法案、協力教員の配置について検討会議を実施した。令和 5 年 9 月 13 日実施。

(5) ニュースレターの発行

- ・2022 年度の事業をコンパクトにまとめた 2023 年版ニュースレターを発行した。500 部印刷し、大学病院・医学部・看護学部・薬学部配布した。
- ・2024 年版ニュースレターを今年度内の発行を目指して準備作業を進めている。

3) IPERC の将来構想

(1) IPERC を含む総合教育棟の概算要求

- ・申請を行ったが獲得はできなかった。

(2) 専門職連携学の構築を目指した大学院における履修証明プログラムの導入や副専攻の設置などの検討

- ・世界展開力強化事業 GRIP により、博士前期課程副専攻国際実践学 GRIP を設置し、7 科目、「専門職連携実践基礎」「専門職連携実践 1」「専門職連携実践 2」「Cultural Competency and Cultural Humility」「社会課題解決基礎」「社会課題解決応用」「専門職間社会課題解決演習」を開講した。本年度は副専攻として受講した院生はいなかった。

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 令和5年度(2023年度)外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、令和5年度外部評価委員会を計画した。COVID-19 拡大防止対策のため、Zoom によるオンライン会議として開催した。

日 時：令和6(2024)年3月11日(月) 10:30～12:00

会議出席者 (五十音順)

外部評価委員 4名 新井利民委員、川崎由紀委員、川島啓二委員、渡邊秀臣委員

千葉大学関係者 16名

諏訪さゆり研究院長、酒井郁子センター長

(以下運営委員) (五十音順)

朝比奈真由美特任教授、天井響子特任准教授、飯野理恵講師、石川雅之助教、井出成美准教授、上原知也教授、大塚将之教授、笠井大講師、菊田直美副看護部長、清水邦夫特任教授(相馬孝博教授代理)、鈴木紀行准教授、孫佳茹特任講師、平田慎之介准教授、眞嶋朋子教授

会議欠席者

外部評価委員 1名 大山良子委員

2. 外部評価委員による講評

外部評価委員には、令和5年度の事業実績について、「A：計画より進捗している、B：計画通り進捗している、C：計画よりやや遅れがある、D：計画よりかなり遅れがある」の評価基準での評価と総合評価コメントをいただいた。外部評価委員からの評価コメント(原文のまま)を掲載する。

	IPERC 自己評価	外部評価委員評価			
		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
1. 教育	A	5			
2. 実践・社会貢献	A	5			
3. 研究	B	3	2		
4. 組織運営	A	5			

【総合評価コメント】原文のまま(順不同)

A 委員	①工学部学生の授業評価や学習効果がさらに向上するための試行錯誤は、今後も継続して多様な領域とともに実施する IPE プログラム構築に向けたベースになるとも考えられる。引き続き学部間教員の議論などにより発展させることを期待したい。 ②昨年と同様の指摘になるが、通称「出会う IPE」プロジェクトの推進に向けた議論や課題抽出は、新たな IPE のプロトタイプの社会実装に向け、大変貴重な取組であると思われる。様々な制約の構造、その克服方法などについて、ぜひ社会に発信していただきたい。 ③IPERC のこの間の取組そのものが、高等教育機関内における IPW の推進であり、さらには高等教育機関のグローバルな IPW の推進と捉えることができる。この展開プロセスや展開方法の組織論的・大学経営論的な考察と含意は、全国や世界の高等教育機関にとって参考になると思われる。このような切り口での研究報告等にも期待したい。
------	--

B 委員	教育プログラムとしての亥鼻 IPE については、Step1 から 4 の各ステージにおいて、コースの枠組みや授業法等につき、学生からの要望に丁寧に対応し、改善の検討が行われている。学生からの要望に対する適切なフィードバックは、学生エンゲージメントを高め、授業への主体的な参加や学修成果の向上につながることを期待されるので、この方向での取り組みの更なる進展が望ましい。学生の満足度も高い。 一方で、専門職連携は、大学における専門職教育の一つであることは言うまでもないが、社会的サービスの質向上、医療・福祉ケアの安全性確保などを、知識やプログラムベースに留まらず、関係アクターとの実践的にかかわりの中で高めていくことの好循環が機能していくことが肝要である。その観点から考えると、IPERC 創設以来の様々な取り組みが、関連するアクターや社会から高く評価され、実を結びつつあることが、今年度の活動実績から、明瞭に見て取れる。特に新たな連携の提案や依頼・委託を受けたり、新しいプロジェクトの開発（「出会って IPE」「うたせ認知症を考える会」など）など、近年におけるその成果は目覚ましいものと評価されてよい。また広く世界に目を転じれば、都合三度もの「大学の世界展開力強化事業」への採択は特筆されるべき成果である。本事業は、学内の他学部・他研究科のコミットメントが見込めるので、全学的教育改革にもつながり、大学執行部にとってもポジティブに受け止められるであろう。特に GRIP は千葉大学看護学研究科でなければ果たせえない取り組みであり、看護学教育・研究の最先端を担う基幹的組織としてその役割・使命を十二分に果たしている。 研究についての、自己評価は B であったが、Interprofessional Socialization フレームワークの翻訳着手は、令和 4 年度末に出された次年度の事業計画になかったものであり、計画を越えた成果（進行中ではあるが）として A 評価が下されてよい。今後の発展に大いに期待したい。
C 委員	コロナが 5 類になり、対面での講義ができ、学生さん達の学習意欲が増えて良かったと思います。学校卒業後、多職種連携を学んだ人達がそれぞれの職場で、どのように構築、推進できるのか楽しみです。 また連携を実践した内容の報告があるとよいなと思いました。
D 委員	教育の事業において、各学部学生の満足度調査等丁寧に評価を行って課題を報告いただいたので、課題解決に向けて学生にあったよりよいプログラムに進化していくとよいと思いました。また、グローバル化が昨年度よりも一層進んでおり、今後の発展を期待するところです。今後も専門職連携教育研究センターのミッションとして、4 つの柱である「教育」「実践・社会貢献」「研究」「組織運営」が効果的に連動して、学内や医療機関内等に波及し地域全体で取組が推進していくことを願います。
E 委員	教育に関しては、コロナ禍での経験を活かして on-line と対面を有効に活かしたプログラムを構築され連携教育の充実が確認され、発展が期待できます。工学部学生の参加の実績も高く評価され課題にも真摯に取り組む体制は多職種連携の教育においてトップランナーとして評価されます。経済的基盤を要する国際的な教育活動もこの IPERC プロジェクトで確実に発展しています。大学の進める国内外に発展する先進性プロジェクトによく連携して、学内外に IPERC の重要性、実績をしっかりと広報し、理解されていることが確認されます。社会貢献事業では、他大学や学会で依頼されて広く実績を報告する機会を多数実績として残されているのも高い教育的実績に基づくものと思われます。また、教育で培った多職種連携推進の知識・技術を行政機関とともに地域に還元する取り組みにも熱心に実績を挙げています。こうした様々な取り組み実績が順調に積み重なっていることを背景に、その科学的検証の成果である学術論文の発表も確実に増えてきています。そして、特筆すべきはその組織運営の成果といえます。中長期の目標は具体的で、現実性の高いもので、IPERC 開始以来、人的、経済的基盤の着実な充実が具体的な成果といえますが、それらが実現されるには、組織外との連携、組織内の一人ひとりの役割に対する高いモチベーションと実践能力が十分に生かされている組織と判断します。

3. 外部評価委員の講評のまとめ

5名の外部評価委員（高等教育の専門家、IPE に精通している他大学の教員2名、県の保健福祉分野の行政職、保健医療福祉サービス利用者）からいただいた評価・コメントを踏まえて、今後の課題をまとめた。

1) 教育について

5名の委員から A 評価を頂いた。コロナ禍におけるオンライン授業の良い点を踏襲し、原則的に対面授業に移行したことや、臨床 IPE の発展と課題抽出、工学部の学生の学習効果をめぐる検討について肯定的に言及していただいた。いずれの課題についても、学生の要望や授業評価・フィードバックを丁寧に分析し、授業改善に真摯に取り組む姿勢を今後も続けて行くことが大事であると認識している。また、国際的なプログラムへの発展についても、その先進性を自覚し、評価を発信していけるよう取り組んでいきたいと考える。

2) 実践・社会貢献について

5名の委員から A 評価を頂いた。多職種連携推進の知識・技術を行政機関とともに地域に還元する取り組み、多様な機関からの要請や依頼を受け、医療保健福祉介護におけるサービスの質向上に向けて、関係者のトレーニングの場をつくり、知識と実践の循環をはかる取り組みについて、肯定的な評価を頂いた。今後も、知識と技術の更新・開発と、それらを実践アクターに還元していく拠点としての役割を認識して取り組んでいきたいと考える。

3) 研究について

3名の委員から A 評価、2名の委員から B 評価を頂いた。Interprofessional Socialization フレームワークの翻訳着手や、学術論文の増加について評価のコメントを頂いた。またセンターの取り組み自体が高等教育機関での IPW の推進であると捉えられることから、センターの活動の展開プロセスや展開方法の組織論的・大学経営論的な考察と含意についての研究報告を期待するとのコメントもあった。委員の皆様の期待を今後の研究活動に反映させていきたいと考える。

4) 組織運営について

5名の委員から A 評価を頂いた。中長期の目標が具体的で現実性が高いこと、外部組織との連携、組織の構成員のモチベーションと実践能力について肯定的な評価を頂いた。上記1)～3)の各事業の実績も組織運営の成果であるとのコメントもいただいた。4つの柱である「教育」「実践・社会貢献」「研究」「組織運営」が効果的に連動して、学内や医療機関内等に波及し地域全体で取組が推進していくことへの期待のコメントもいただいた。来年度は中期目標の最終年度であるため、この5年間の振り返りを行い、次期中期への展望を明確にしていきたい。

V. 資料

(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績

受講学生数(総計 17,184名)

年次	Step1					Step2				Step3					Step4				クリニカルPE				合計				
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他（他大生）	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計					
2007	97	86	85	-	268	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	268				
2008	100	81	83	-	264	97	83	83	263	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	527				
2009	109	84	80	-	273	97	83	83	263	97	85	43	-	225	-	-	-	-	-	-	-	-	761				
2010	109	84	80	-	273	108	83	77	268	102	78	50	-	230	95	89	41	225	-	-	-	-	996				
2011	113	84	86	-	283	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	-	-	-	-	1,019				
2012	117	85	88	-	290	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	-	-	-	-	1,035				
2013	118	84	88	-	290	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	-	-	-	-	1,074				
2014	119	84	83	-	286	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	-	-	-	-	1,078				
2015	121	83	87	-	291	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	4	4	3	11	1,099				
2016	119	80	84	-	283	119	84	87	290	123	85	45	5	258	131	83	40	254	15	13	13	41	1,126				
2017	118	84	86	54	342	117	80	84	281	125	80	45	5	255	124	84	40	248	17	17	16	50	1,176				
2018	117	84	85	44	330	114	80	84	278	117	158	42	4	321	132	79	45	256	11	17	10	38	1,223				
2019	123	82	89	46	340	116	81	85	282	122	81	55	3	261	118	160	51	329	14	14	17	45	1,257				
2020	117	80	93	41	331	124	84	88	296	110	84	43	0	237	118	80	44	242	-	-	-	-	1,106				
2021	116	82	95	50	343	113	77	93	283	129	77	57	0	263	109	81	41	231	8	12	9	29	1,149				
2022	120	84	97	50	351	118	82	68	268	111	81	48	0	240	129	75	57	261	8	11	8	27	1,147				
2023	120	84	93	52	349	112	84	79	275	121	84	49	0	254	113	80	49	242	7	9	7	23	1,143				
5187										4480					3785					3468				264 17,184			

*医学部は附属病院医師含む。

教員及び外部機関専門職（総計 2,473名）

**附属病院は医師以外

年次	Step1（教員、外部機関専門職）						Step2（教員、外部機関専門職）						Step3（教員、外部機関専門職）					
	*医学部	看護学部	薬学部	工学部	その他	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計
2007~2010	31	44	37	-	-	112	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-	-	40	4	6	5	-	0	15	4	6	5	0	-	15
2014	12	15	15	-	-	42	5	5	7	-	0	17	4	10	6	3	40	63
2015	17	12	6	-	-	35	7	7	6	-	22	42	15	8	5	3	24	55
2016	16	10	7	-	-	33	6	6	7	2	1	22	7	13	6	3	1	30
2017	14	11	7	10	-	42	6	6	6	2	1	21	8	10	6	-	-	24
2018	12	9	6	12	-	39	7	5	5	1	0	18	9	9	6	-	-	24
2019	18	9	7	13	-	47	12	6	5	1	0	24	12	11	7	-	-	30
2020	5	16	7	3	-	31	4	16	5	0	0	25	11	15	8	-	-	34
2021	11	13	7	12	4	47	11	9	4	1	0	25	10	9	8	-	-	27
2022	15	16	6	14	4	55	10	8	5	0	0	23	12	14	7	-	-	33
2023	15	19	6	14	2	56	12	12	5	0	0	29	10	12	8	-	-	30

年次	Step4											クリニカルIPE							合計						
	医学部	看護学部	薬学部	医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー	附属病院				外部機関	計	医学部		看護学部	薬学部	附属病院			計
												管理栄養士	遺伝カウンセラー	管理栄養士	薬剤師							医師	看護師	薬剤師	
2007~2010	1	2	2	11	10	3	3	3	2	6	1	1	4	-	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	161
2011	2	6	2	9	6	1	3	3	2	3	1	1	2	1	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70
2012	3	4	2	11	7	3	2	3	1	5	1	1	4	-	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75
2013	5	6	3	9	9	3	3	3	1	5	1	2	4	-	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	124
2014	3	5	3	10	9	3	3	3	1	4	1	1	4	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	172
2015	1	8	5	16	9	3	3	3	2	5	1	1	4	-	61	2	4	1	3	2	0	12	205		
2016	1	9	7	14	9	4	3	3	2	7	0	2	4	-	65	2	5	2	13	22	19	63	213		
2017	2	7	6	13	9	5	3	3	1	7	1	2	4	-	63	2	8	3	14	20	14	61	211		
2018	1	10	5	15	10	5	4	4	2	4	1	2	4	-	67	2	8	2	9	15	12	48	196		
2019	2	7	5	16	11	5	3	3	2	7	1	0	4	-	66	2	8	3	13	13	15	54	221		
2020	3	12	5	11	11	5	2	3	1	7	1	1	3	-	65	-	-	-	-	-	-	-	-	155	
2021	8	8	7	10	11	5	3	3	1	7	2	1	4	-	70	3	7	2	9	15	10	46	215		
2022	9	10	6	11	13	6	3	5	1	7	1	2	3	-	77	3	5	3	10	9	13	43	231		
2023	5	10	7	14	12	5	2	3	1	6	1	1	3	-	70	3	6	2	6	9	13	39	224		
2,473																									

協力TA [大学院生] (総計 311名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				合計
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	1	3	0	12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	5	4	1	4	27
2018	0	2	4	6	2	0	4	6	0	1	2	0	3	0	2	6	23
2019	3	7	2	12	3	6	3	12	0	3	2	0	5	3	0	2	35
2020	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2021	0	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2022	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2023	2	6	1	9	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10

311

実習協力施設（総計 828名）

年次	Step1		Step2							クリニカルIPE		合計
	病院	福祉施設	病院	診療所・クリニック	薬局	訪問看護ステーション	回復期リハビリテーション病棟	保健機関・介護福祉施設	計	附属病院 診療科		
2007～2010	24	0	15	32	52	25	-	21	145	-	169	
2011	6	0	5	11	15	11	-	8	50	-	56	
2012	6	0	5	9	22	9	-	4	49	-	55	
2013	6	0	6	12	21	6	-	3	48	-	54	
2014	7	0	6	11	17	6	3	2	45	-	52	
2015	6	0	6	11	15	5	4	3	44	2	52	
2016	6	0	7	11	15	5	6	3	47	10	63	
2017	7	0	11	10	15	5	3	5	49	12	68	
2018	7	0	7	11	13	5	3	3	42	9	58	
2019	8	0	5	14	17	5	3	2	46	10	64	
2020	0	1	1	5	5	1	0	1	13	-	14	
2021	2	1	5	6	11	4	2	2	30	6	39	
2022	2	0	5	6	13	5	2	1	32	6	40	
2023	2	0	6	8	14	4	2	2	36	6	44	

828

FD/SDの参加者数（総計 2,074名）
 *2016～亥鼻FDプロジェクト開始
 授業に協力いただいた患者団体
 (総計 90団体)

年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計
		実習施設 担当者	ファシリ テーター				
2007～2010	88	44	-	-	28	105	265
2011	17	33	-	-	23	-	73
2012	17	31	-	-	17	-	65
2013	20	17	-	-	25	-	62
2014	31	15	-	61	25	-	132
2015	10	28	43	52	24	22	179
2016	21	42	-	29	35	54	181
2017	23	21	-	21	29	134	228
2018	22	36	-	16	25	43	142
2019	17	28	-	22	26	36	129
2020	-	-	-	-	29	35	64
2021	29	49	-	-	-	21	99
2022	55	42	-	32	77	39	245
2023	56	41	-	26	70	17	210
※2022年よりStep2以外はメールで資料配布							2074
2007～2010							48
2011							17
2012							2
2013							2
2014							2
2015							2
2016							2
2017							2
2018							2
2019							2
2020							3
2021							2
2022							2
2023							2
90							90

(資料2) IPERC主催研修受講者

IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修 2名

所属	領域	都道府県	人数
大学	看護・医療系	東京都	1
		群馬県	1

IPWベーシック研修・IPWマネジメント研修

【理論編】 31名

所属	職種	都道府県	人数
医療機関	医師	岡山県	1
	看護職	千葉県	7
		東京都	3
		兵庫県	1
	ソーシャルワーカー	千葉県	4
	理学療法士	東京都	1
		福島県	1
	作業療法士	千葉県	1
	社会福祉士	千葉県	2
	管理栄養士	千葉県	2
	事務職	茨城県	1
大学・短期大学・専門学校	公認心理士	香川県	1
	医師（博士課程）	東京都	1
	看護教員（看護師）	静岡県	2
		沖縄県	1
その他	看護職	埼玉県	1
		高知県	1

【IPWベーシック研修 実践編】 63名

職種間の理解 13名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	3	9
		東京都	2	
		兵庫県	1	
	ソーシャルワーカー	千葉県	2	
	社会福祉士	千葉県	1	
大学・専門学校	公認心理士	香川県	1	3
	医師（博士課程）	東京都	1	
	看護教員（看護師）	静岡県	1	
その他	看護師	埼玉県	1	1

チーム内の効果的なコミュニケーション 9名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	2	5
		兵庫県	1	
	ソーシャルワーカー	千葉県	1	
	社会福祉士	千葉県	1	
大学・専門学校	公認心理士	香川県	1	3
	医師（博士課程）	東京都	1	
	看護教員（看護師）	静岡県	1	
その他	看護師	埼玉県	1	1

チームワークの促進スキル 12名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	3	8
		兵庫県	1	
	理学療法士	福島県	1	
	ソーシャルワーカー	千葉県	1	
	社会福祉士	千葉県	1	
	作業療法士	千葉県	1	
大学・専門学校	公認心理士	香川県	1	3
	医師（博士課程）	東京都	1	
	看護教員（看護師）	静岡県	1	
その他	看護師	埼玉県	1	1

多職種カンファレンス 15名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	2	9
		兵庫県	1	
	ソーシャルワーカー	千葉県	2	
	理学療法士	福島県	1	
	社会福祉士	千葉県	1	
	作業療法士	千葉県	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	公認心理士	香川県	1	5
	医師（博士課程）	東京都	1	
	看護教員（看護師）	静岡県	2	
	看護師	沖縄県	1	
その他	看護師	埼玉県	1	1

対立の解決 14名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	2	10
		東京都	2	
		兵庫県	1	
	ソーシャルワーカー	千葉県	2	
	理学療法士	福島県	1	
	作業療法士	千葉県	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	公認心理士	香川県	1	3
	医師（博士課程）	東京都	1	
	看護教員（看護師）	静岡県	1	
その他	看護師	埼玉県	1	1

【IPWマネジメント研修 実践編】 8名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	2	8
		静岡県	1	
		東京都	1	
	理学療法士	東京都	1	
	社会福祉士	千葉県	1	
	ソーシャルワーカー	千葉県	1	
	管理栄養士	千葉県	1	

(資料3) 地域貢献事業実績

社会貢献事業実績

【国内】

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
1 事業委託	行政機関	千葉県健康福祉部高齢者福祉課	研修講師	認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 対象：千葉県内で勤務する医師、看護職、薬剤師、介護職等	2023.12.23 2024.1.28	9:30-16:00	千葉大学大学院看護学研究科 看護医療総合教育研究棟	諏訪さゆり、酒井郁子 井出成美、下井俊典 孫佳茹
2 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター	研修講師	IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修 対象者：専門職連携教育実装・運営に関する課題をもっている教員	2023.8.19 2023.11.23	9:00-16:00	オンライン(配信型 講義)	酒井郁子、井出成美、 下井俊典、孫佳茹
3 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター	研修講師	IPWペーシング研修・IPWマネジメント研修【理論編】	2023.6.1- 2024.1.31		オンライン(オンデマ ント)	酒井郁子、井出成美、
4 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター	研修講師	IPWペーシング研修 実践編① 職種の理解 実践編② チーム内の効果的なコミュニケーション 実践編③ チームワークの促進スキル 実践編④ 多職種カンファレンス 実践編⑤ 対立の解決	①2023.10.10 ②2023.10.24 ③2023.11.7 ④2023.11.28 ⑤2023.12.12	17:00-20:00	オンライン(配信型 講義)	酒井郁子、井出成美、 下井俊典、孫佳茹 臼井いつみ
5 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター	研修講師	IPWマネジメント研修 実践編 対象：保健医療福祉関係施設に所属する専門職連携に課題をもつ専門 職	2024.1.20	9:00-16:00	オンライン(配信型 講義)	酒井郁子、井出成美、 孫佳茹
6 講師派遣	学内	総合医療教育研修センター(学内)	講演	4月3日(月) 令和5年度新入職員研修 多職種参加型研修専門職連携(IPW)	2023.4.3	9:00-17:30	医学系総合研究棟 第1講義室、第2講義 室、第3講義室	酒井郁子、朝比奈真由 美、井出成美、下井俊 典、孫佳茹
7 講師派遣	保健医療福祉機関	第31回日本医学会総会 会頭 春日雅人、準備委員長 門脇孝 学術委員長 南学正臣	講演	第31回日本医学会総会2023東京 セッション名：医療人の教育と現状と今後の在り方 講演名「特定行為研修は医療者教育の在り方にどのような影響を与える のか」	2023.4.22	16:00-18:00	東京国際フォーラム ホールD1 第7会場	酒井郁子
8 講師派遣	保健医療福祉機関	東京都看護協会	講師	ファーストレベル 教育目的：看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度 を習得する。管理 I 1)看護サービスの質管理 研修生 110名(予定)	2023.5.22 2023.11.20	9:30-16:30	東京都看護協会の 館	酒井郁子
9 情報発信	保健医療福祉機関	日本老年看護学会	学術集会会長、講演	日本老年看護学会 第28回学術集会 老年看護のJourney 現地開催：2023年6月16日(金)～6月18日(日) (現地開催プログラムのLIVE配信、オンデマンド配信なし) オンデマンド配信：2023年6月16日(金)～8月31日(木)	2023.6.16-6.18	9:00-16:00	パソコ横浜ノース	酒井郁子
10 情報発信	保健医療福祉機関	日本老年看護学会	講演	日本老年看護学会 第28回学術集会 教育セミナー いまさら聞けないIPEのこと 老年看護学との接点 看護学系教育機関におけるIPEの授業設計 オンデマンド配信：2023年6月16日(金)～8月31日(木)	2023.6.16-6.18	9:00-16:00	パソコ横浜ノース	井出成美
11 講師派遣	保健医療福祉機関	公益社団法人デクノエイド協会	講師	“福祉用具プランナー”管理指導者養成研修(令和5(2023)年度) 授業：医学一般(専門職の役割と連携・協働の在り方)”	2023/7/7	13:00-14:30	公益社団法人デクノ エイド協会会議室	下井俊典
12 講師派遣	保健医療福祉機関	岩手県看護協会	講師	令和5年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル 組織管理理論Ⅱ 講義内容：看護管理における倫理 「看護管理における倫理的課題」「看護管理における倫理的医師決定」	2023.7.11	9:30-16:30	オンライン講義	酒井郁子

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
13	講師派遣	保健医療福祉機関	千葉県看護協会	講演	研修会名:高齢者を支える看護と高齢者虐待予防研修 対象:保健師・助産師・看護師 定員:100名	2023.7.14	13:15-16:15	オンライン	酒井郁子
14	講師派遣	他大学	北里大学大学院看護学研究科 研究科長 松谷伸二	非常勤講師	老年看護学Ⅳ(3コマ)	2023.7.20	9:00-14:15	オンライン	酒井郁子
15	情報発信	保健医療福祉機関	第55回日本医学教育学会	座長	学会連携企画2 モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための 多職種連携教育の設計	2023.7.29	14:40-16:10	出島メッセ長崎	酒井郁子
16	情報発信	保健医療福祉機関	第55回日本医学教育学会	シンポジスト	学会連携企画2 モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための 多職種連携教育の設計 Ss-02-3基礎教育で身につけるべき連携協働能力 IPEの哲学に基づく学習到達目標と学習方法	2023.7.29	14:40-16:10	出島メッセ長崎	井出成美
17	講師派遣	他大学	順天堂大学大学院医療看護学研究科 神看護学分野 水野 重理子 〒279-0023 浦安市高洲2-5-1	講演	医療看護学部FD講演会 「多職種連携教育(IPE)を理解する・始める」に関する講演 教員のグループワーク	2023.7.31	10:00-11:30 12:30-14:00	順天堂大学浦安キャンパス	酒井郁子
18	講師派遣	学内	千葉大学医学部附属病院総合医療教育 研修センター	研修講師	特定行為研修 「チーム医療 多職種協働 演習」	2023.8.2	13:00-17:00	医学部附属病院	酒井郁子、井出成美、 下井俊典、孫佳茹、臼井 いづみほか
19	講師派遣	保健医療福祉機関	第35回日本看護学校協議会学会	講演	第35回日本看護学校協議会学会 特別講演②「これからの看護師に必要な多職種連携教育の進め方について」	2023.8.3	13:20-14:50	水戸市民会館	酒井郁子
20	その他	民間団体	スカウティング研究フォーラム	通訳・コーディネーター	スカウティング研究フォーラム「台湾におけるスカウト運動の現状」	2023.8.8	19:30-21:00	オンライン(横浜)	孫佳茹
21	講師派遣	保健医療福祉機関	全国視能訓練士学校協会	講師	〃第16回教員研修会 テーマ「学生を『巻き込む』授業をどう作るかー教育設計理論に基づいた授業の設計ー」	2023.8.23-24	8.23. 12:50-17:30 8.24. 9:30-11:50	国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス	下井俊典
22	講師派遣	他大学	群馬大学大学院 保健学研究科 リハビリテーション学講座	非常勤講師	第10回群馬大学IPEトレーニングコース(2023) 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向けIPEトレーニングコース	2023.8.24	13:30-14:10	群馬大学	孫佳茹
23	講師派遣	保健医療福祉機関	静岡県看護協会	講演	令和5年度静岡県専任教員養成講習会 講義:「看護教育方法論IPE」専門職連携教育 8時間	2023.8.28	9:30-12:40 13:30-16:40	静岡県看護協会	井出成美
24	講師派遣	大学以外の教育機関	茨城県立龍ヶ崎第一高等学校	講演	模擬講義 国際保健と看護-多文化社会とヘルスケア-			茨城県立龍ヶ崎第一高等学校	野崎章子
25	講師派遣	市教育委員会	市川市教育委員会	講演	養護教諭夏季研修会 他者に助けを求めない子供の心の理解と支援				天井響子

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
26	その他	保健医療福祉機関	日本看護協会	委員会委員	「人生100年時代の看護職キャリア継続支援ツール」検討委員会委員 2023年1月1日～2023年3月31日	年3回	2時間		酒井郁子
27	その他	保健医療福祉機関	千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県 千葉リハビリテーションセンター	委員会委員	千葉県千葉リハビリテーションセンター倫理委員会看護局部会の部会委員 嘱	2023.5.1- 2025.3.31		千葉県千葉リハビリ テーションセンター	酒井郁子
28	情報発信	外部機関	岩内町郷土館	シンポジスト	岩内町郷土館第三回企画展「岩内少年団下田豊松の功績」の一環として、シンポジウム『少年団日本連盟設立100周年+1年企画「初代チーフスカウト下田豊松のスカウト運動と岩内少年団」』が開催。「下田豊松と第一回世界チャンピオン」について発表した	2023.9.9	13:00～16:00	オンライン	孫佳茹
29	講師派遣	保健医療福祉機関	千葉県看護協会	講師	第22回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 研修講師 統合演習Ⅱ文献検索1～①	2023.9.11	9:30～12:30	オンライン	酒井郁子
30	講師派遣	大学以外の教育機関	北海道旭川西高等学校	講師	道外大学研修 (SSH事業)	2023.9.13	13:00～17:00	千葉県大学亥鼻キャン パス	井出成美、下井俊典 天井響子、孫佳茹ほか
31	講師派遣	保健医療福祉機関	青森県看護協会	講師	令和5年度青森県看護協会「介護施設の為の看護力推進研修」 高齢者施設で働く看護部の責任者のマネジメント	2023.9.23	10:00～12:00	県民福祉プラザ4階 大中研修室	酒井郁子
32	講師派遣	保健医療福祉機関	宮城県看護協会	講師	高齢者ケア施設で働く看護管理者研修 対象: 高齢者ケア施設に勤務する看護管理者または指導的立場にある看護職 定員: 50名	2023.10.16	10:00～12:00	オンライン	酒井郁子
33	講師派遣	大学以外の教育機関	青森県立八戸北高等学校	講師	講師の専門分野に関する模擬講義	2023.10.17	13:05～15:55	青森県立八戸北高 等学校	酒井郁子
34	講師派遣	他大学	岐阜大学	講師	“岐阜大学 岐阜薬科大学 平成医療短期大学・岐阜市立女子短期大学・朝日大学・朝日大学歯科衛生士専門学校 との共同授業 『多職種メディカルケアチーム医療教育(MMeGTE)』”	2023.10.23	8:45～11:45 13:15～16:15	オンライン	下井俊典 笠井大
35	講師派遣	他大学	岐阜大学大学院医学研究科	講師	医療者教育学専攻修士課程授業 IPGに必要な社会心理学理論とPPEに必要な学習理論 (オンライン)			オンライン	下井俊典
36	講師派遣	学内	千葉県大学医学部附属病院総合医療教育 研修センター	研修講師	令和5年度 新規採用者研修 (年度中途採用者向け) 内容: 専門職連携 (IPW)	2023.10.25	13:30～15:00	教育研修棟1階 ク リニカルスキルズ・セ ンター	酒井郁子、井出成美、 下井俊典、孫佳茹 白井いつみ
37	講師派遣	保健医療福祉機関	回復期リハビリテーション病棟協会	講師	回復期リハビリテーション看護認定コース (第16期) ・看護とリハビリテーションの考え方 ・QOLの考え方と評価 ・生活の再構築と自立支援	2023.11.1	9:00～11:00 11:00～12:00 13:00～14:30	オンライン	酒井郁子

	依頼内容の 種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
38	講師派遣	保健医療福祉機関	千葉県看護協会	研修講師	第22回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 研修講師 ヘルスケアシステム論Ⅱヘルスケアサービスにおける多職種連携 2、およびレポート評価（うち講義1.5H、演習1.5H）	2023.11.13	9:30-16:15	千葉県看護協会	井出成美 孫佳茹 白井いづみ
39	講師派遣	保健医療福祉機関	第45回日本手術医学会総会	講演	「第45回日本手術医学会総会」パシフィコ横浜 会議センター 【開催概要】特別講演3 これからの看護職の価値と働き方 セッション名：特別講演3 これからの看護職の価値と働き方	2023.11.24	18:35-17:15	パシフィコ横浜 会議 センター	酒井郁子
40	情報発信	保健医療福祉機関	第16回日本保健医療福祉連携教育学会 学術集会	パネリスト	IPF/パネルディスカッション 私が実践している多職種連携教育 〜うまくいっていること、困っていること〜	2023.11.26	9:55-11:25	藤田医科大学	下井俊典
41	講師派遣	その他	エーザイ株式会社 エーザイジャパン 地域連携首都圏本部 千葉県東総括部	講演	東総地区不眠症診療WEBセミナー 開催場所：旭中央病院 おおさいホール	2023.11.29	19:00-20:00	旭中央病院 おおさいホール (WEB配信)	酒井郁子
42	講師派遣	保健医療福祉機関	神奈川県看護協会	研修講師	令和5年度介護保険施設等看護研修Ⅲ 講義名：介護保険施設での看護管理者としての役割と責務 対象者：介護保険施設等に勤務している管理者立場にある看護職、または今後管理者としての役割を期待されている看護職 50名	2023.12.6	9:30-12:30	オンライン	酒井郁子
43	講師派遣	保健医療福祉機関	第12回日本理化学療法教育学会学術大会	講演	“教育講演 「学習科学を基にした多職種連携教育 -IPFの実践例から考えるインスト ラクションナル・デザイン」”	2023.12.9	18:50-20:20	大宮ソニックシティ	下井俊典
44	講師派遣	他大学	早稲田大学教育・総合科学学術院 教育総合研究所所長 近藤孝弘	研修講師	北京師範大学・オンライン絵本講座	2023.12.15	19:00-22:00	オンライン	孫佳茹
45	講師派遣	保健医療福祉機関	千葉県看護協会	研修講師	看護師の特定行為研修制度と研修修了者の実践 対象者：保健師・助産師・看護師 定員：100名	2024.1.29	11:00-16:15	オンライン	酒井郁子
46	講師派遣	保健医療福祉機関	日本プライマリ・ケア連合学会	研修講師	日本プライマリ・ケア連合学会 研修会 『地域でのACP普及の取り組み 私らしゅう生きるノートと動画活用につい て』『「薬剤師と看護師の協働の推進」』	2024.2.4	9:20-12:30	オンライン	酒井郁子
47	講師派遣	学会	日本薬剤師レジデント制度研究会	ワークショップ	「薬剤師レジデントプログラム：みんなで考えよう！薬剤師のプロフェッショ ナリズム」 薬剤師のプロフェッショナルリズムコンピテンシー生成のためのワークショッ プ	2024.03.	13:00-16:00	千葉大学病院ガー ネットホール、他	朝比奈真由美
48	講師派遣	学会	医学教育学会・プロフェッショナルリズム部 会	セミナーとワーク シヨブ	「発達障害関連学生支援ワークショップ」	2024.03.02	13:30-16:30	TKPスター賃会議室 四谷 第2	朝比奈真由美（主催メン バー） 笠井大（講演者）
49	その他	職能団体	日本看護系大学協議会	ヒアリング	文部科学省『令和5年度「先進的の大学改革推進委託事業」看護学教育 モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究』の調査に関し、次世代 看護職の基本的資質・能力（コンピテンシー）に基づく教育内容ならび に評価基準等について、各専門分野の立場からご意見調査				酒井郁子
50	講師派遣	職能団体	内科系学会社会保険連合、外科系学会 社会保険委員会連合、看護系学会等社 会保険連合	講演	講演 2）看護連における2024年度（令和6年度）診療報酬・介護報酬の評 価	2024.3.5	18:35-19:35	大村進・美枝子記念 聖路加臨床学術セ ンター 日野原ホール	酒井郁子

	依頼内容の 種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
51	講師派遣	保健医療福祉機関	回復期リハビリテーション病棟協会第43回 研究大会in熊本 運営事務局	講演	回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会in熊本 セッション名:教育講演6 ご演題:回復期リハ病棟におけるこれからの生活の再構築と自立支援 日時:3月8日(金)14:10～15:00	2024.3.8	14:10-15:00	第3会場(3F大会議 室A2)	酒井郁子
52	講師派遣	その他	エーザイ株式会社 エーザイジャパン 地域連携首都圏本部 千葉南東統括部	講演	医療安全と不眠症診療セミナー 身体拘束縮小に向けた取り組みと不眠症診療の治療の向上	2024.3.15	13:30-14:30	オンライン	酒井郁子
53	講師派遣	その他	エーザイ株式会社 エーザイジャパン 地域連携首都圏本部 千葉南東統括部	講演	印旛地区医療安全セミナー 身体拘束縮小と不眠症治療薬の適正使用—当院での取り組みの実際と 効果	2024.3.21	19:00-20:00	オンライン	酒井郁子
54	講師派遣	その他	エーザイ株式会社 エーザイジャパン 地域連携首都圏本部 千葉南東統括部	講演	不眠症診療Webセミナーin船橋 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果—不眠症治療薬の適正使 用を含めて—	2024.3.26	18:00-19:00	船橋二和病院	酒井郁子
55	講師派遣	他大学	令和医療科学大学	研修講師	専門職連携教育Ⅲ研修会「P/Eにおける教員(教育者)の役割とその背景 理論」	2024.3.29	14:00-15:30	令和医療科学大学	下井俊典

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	日にち	時間帯	場所	対応者
56	CICS29	学内	千葉大学大学院医学研究院 地域医療教育学	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.4.20			酒井郁子
57	CICS29	他大学	東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター 医学教育国際協力学	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.5.11			酒井郁子
58	CICS29	他大学	藤田保健衛生大学医学部 臨床総合医学	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.5.18			酒井郁子
59	CICS29	他大学	富山大学学術研究部医学系母性看護学教授・看護学科長	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.5.24			酒井郁子
60	CICS29	他大学	帝京平成大学健康医療スポーツ学部看護学科	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.8.26			酒井郁子
61	CICS29	大学以外の教育機関	福岡市医師会看護専門学校 第1看護学科 教務課主任	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.9.14			酒井郁子
62	CICS29	保健医療福祉機関	社会医療法人 三岐会 宮崎病院(宮崎病院総合リハビリセンター)理学療法士	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.10.11			酒井郁子
63	CICS29	他大学	京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 博士前期課程 成人看護学教室	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.10.24			酒井郁子
64	CICS29	他大学	岐阜大学大学院医学系研究看護学専攻 成人急性期看護学分野 修士課程	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2023.1.4			酒井郁子
65	CICS29	他大学	公立大学法人 富山県立大学 大学院看護学研究科 成人看護学 看護学部 成人看護学	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2024.2.4			酒井郁子
66	CICS29	他大学	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 理学療法学科	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2024.2.28			酒井郁子
67	CICS29	他大学	了徳寺大学 健康科学部看護学科	調査研究にCICS29を使用することへの許諾ねがい	2024.3.25			酒井郁子

【海外】

	依頼内容 の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
68	講演	他大学	Semahat Arsel Nursing Education Practice and Research Center (SANERC)トルコ	講演	・Interprofessional Education Workshop 「Interprofessional Education in Japan」 本 邦および他大学・学際IPEの現状と課題につ いて	2023.7.27		オンライン	下井俊典

(資料 4) IPERC特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金 (いづれも継続)

No	研究代表者	研究課題	助成金の種類
1	朝比奈真由美	英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	科研基盤研究C
2	飯野理恵	住民との共働による生活習慣病予防活動のための教材開発と普及に関する研究	科研基盤研究C
3	石橋みゆき	Transitionalケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発	科研基盤研究B
4	井出成美	学生の専門職間連携能力の発展を促進するIPEプログラムの実装に有用な学習理論開発	科研基盤研究C
5	臼井いづみ	災害対策本部で必要なりーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発	科研基盤研究C
6	酒井郁子	回復期リハビリテーション病棟におけるEBP実装プログラムの検証	科研基盤研究B
7	下井俊典	医療保健福祉分野における多職種間教育が卒後専門職行動に与える短・長期的教育効果	科研基盤研究C
8	関根祐子	舌圧値を活用した口腔機能評価に基づく薬剤師による口腔教育・服薬支援システムの構築	科研基盤研究C
9	眞嶋朋子	心不全患者の退院後の心理的安寧を支える看護支援方法の開発	科研基盤研究B

(資料 5) IPERC 外部からの寄付金及び委託費

寄付金			
項 目		交付額	備 考
ユニコ (2018年度)		1,500,000	来年度繰越可能
社会医療法人 関愛会 (2019年度)		200,000	来年度繰越可能
社会福祉法人りべるたす (2020年度)		600,000	来年度繰越可能
		2,300,000	
委託費・助成金			
項 目		交付額	備 考
千葉県 (認知症にかかわる専門職の多職種協働研修)		816,000	今年度使い切り
墨田区プロトタイプ実証実験支援事業		384,615	今年度使い切り
タムス岡本記念財団助成金		500,000	今年度使い切り
		1,700,615	

(資料6) 研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績（下線は兼務教員、二重下線は特任教員）を以下に示す。

〔原著〕

1. 山下喬之, 平原大助, 下井俊典 (2023). Virtual Reality の臨場感がもたらす多職種連携教育の可能性 専門職養成課程における VR を用いた具体的教育方略の考案. 理学療法教育, 3(1), 19-27.
2. Kohara, I., Fujiwara, N., Tamaki, S., Nakahama, H., Nosaki, A., Hosoya, M., Yabuki, M., Yamamoto, M., Kojima, C., & Fujiwara, K. (2023). Development of a Japanese Scale that Evaluates the Level of Nursing Support Provided to Patients for Decision-Making in Cancer Clinical Trials. *Journal of cancer education. the official journal of the American Association for Cancer Education*. 10.1007/s13187-023-02297-6
3. 野崎章子, 野地有子(2023). 在日ブラジル人の東日本大震災の経験と心理的影響に関する記述的研究. *Health Sciences*. 39(2), 33-42.
4. 藤田冬子, 村松真澄, 辻村真由子, 黒河内仙奈, 伊藤裕佳, 福井小紀子, 酒井郁子(2023). 特別養護老人ホーム入居者のエンドオブライフにおけるケアニーズの構造化. 老年看護学, 28(1), 62-71.
5. Amai, K. (2023). The three-year trajectory of students' school adaptation in secondary school and its longitudinal associations with trust, prospects, and positivity towards stress. *International Journal of Adolescence and Youth*, 28(1).2023. <https://doi.org/10.1080/02673843.2023.2242485>
6. 山本武志, 佐伯昌俊, 西宮岳, 小松亮, 山本則子, 酒井郁子(2023). 特定行為研修を修了した看護師の導入・配置に関わる要因 全国 300 床以上の病院の看護管理者を対象とした横断的研究. 日本看護管理学会誌(Web), 27(1), 61-70.
7. Saiki, M., Tomotaki, A., Fukahori, H., Yamamoto, T., Nishigaki, M., Yasuda, E., Matsuoka, C., & Sakai, I. (2023). Reliability and Validity of the Japanese version of the Implementation Leadership Scale for Nurse Managers and Staff Nurses. *Journal of Nursing Management*, DOI 10.1155/2023/4080434 (査読有、国際誌)

〔論文等(査読あり)〕

8. 佐伯昌俊, 小松亮, 西宮岳, 酒井郁子(2023). 急性期病院において複数の特定行為研修修了者の活動を支援する管理実践の要素 管理者へのインタビューによる質的研究. 日本看護管理学会誌, 27(1), 1-9.
9. Saiki, M., Nishimiya, G., Gotoh, T., Hirota, K., Sakai, I. (2023). Experiences and attitude of task shifting and task sharing of physicians, nurses, and nursing assistants in hospitals: a qualitative systematic review protocol. *JBIR Evidence Synthesis*, Ovid Technologies (Wolters Kluwer Health). DOI10.11124/jbies-23-00140.2023.11.27
10. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., Okumura-Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence-Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. *Nursing open*, 10(6), 3719-3727.
11. 松本暢平, 小野寺みさき, 朝比奈真由美, 酒井郁子, 伊藤彰一(2023). 医学生の在学中のとりくみと知識・スキルの習得感・習得度との因果に関する構造方程式モデリングによる検討. 医学教育, 54(Suppl.), 279.

12. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., &Okumura-Hiroshige, A. 2023 年度看護学研究賞 論文
要旨: Factors Affecting the Critical Appraisal of Research Articles in Evidence-Based Practices by
Advanced Practice Nurses. *A Descriptive Qualitative Study*. 日本私立看護系大学協会会報,50,14-15. 一
般社団法人 日本私立看護系大学協会

〔論文等(査読なし)〕

13. 酒井郁子(2024). 特集 1 日本老年看護学会第 28 回学術集会：会長講演 老年看護の Journey, 老年看護
学 28(2), 5-8.
14. 酒井郁子(2024). 12 プライマリ・ケアの理論と実践 第 191 回 2024 年に期待するプライマリ・ケア 【3】.
日本医事新報, No.5211,3(2).2024.

〔報告書〕

15. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 天井響子, 下井俊典, 孫佳茹, 富永嘉子, 高野佳奈 佐野朋子: 千葉大学大学
院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 5 年度事業報告書, 2023.
16. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 高野佳奈: グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 Global & Regional
Interprofessional Education Plus (GRIP) 年次報告書 2022 令和 5 年度, 2023

〔単行書〕

17. 酒井郁子, 井出成美, 朝比奈真由美編: これからの IPE (専門職連携教育) ガイドブック, 南江堂, 2023.
18. 宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子編: 最新公衆衛生学, 井出成美: 第 3 章公衆衛生看護活動の
展開方法論Ⅳ, 地域ケア体制づくり 3.地域づくり・まちづくり 2) 地域住民の相互の助け合い強化によるまち
づくり, 日本看護協会出版会, 2024.

〔学会発表抄録〕

19. Shimoi, T., Takano, Y., Hamachi, N. (2023). Relations Between Conceptions of Learning and Motivation
in First-year Physical Therapy Students in Japan. World Physiotherapy Congress 2023, Dubai, UAE,
2-4 June 2023
20. 相川理沙*, 西宮岳, 佐伯昌俊, 酒井郁子(2023). 医療療養病棟において中心静脈栄養中の高齢者のコンフ
ォートを促進する看護援助の効果ー特定行為を組み込んだ看護援助の患者にとっての意味を考えるー. 日本
老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 218. (査読あり・国内学会) *修士課程修了
21. 出穂麻智子*, 佐伯昌俊, 西宮岳, 酒井郁子 (2023). 肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周術期
看護の効果. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 219. (査読あり・国内学会) *修士課程修了
22. 菊池信示郎, 森内加奈恵, 野崎章子(2023). NDB オープンデータを活用した日本における精神科退院前訪
問看護の現状. 第 119 回日本精神神経学会学術総会. . (査読あり、国内学会)
23. Moriuchi, K., Nishiyama, I., Ogawa, S., &Nosaki, A. (2023). Effects of inpatient family-based treatment
for Anorexia Nervosa using data-sharing with families: A single-case design. PRCP 2023. (査読あり・
国際学会 (海外))
24. Nosaki, A., Moriuchi, K., & Kohara, I. (2023). Developing Guidelines to Support Pandemic-Resilient

Community Living for People with Mental Health Problems in Japan: A Project Agenda. PRCP 2023.
(査読あり・国際学会 (海外))

25. Yai, M., Nosaki, A., Moriuchi, K. (2023). A Scoping Review Protocol on the Practice of Trauma-Informed Approaches in Japan: Toward Dissemination and Practice Improvement. PRCP 2023. (査読あり・国際学会 (海外))
26. Noji, A., Nosaki, A., Iijima, S., Mizobe, A., Kamishima, S., & Okamoto, M. (2023) . Dissemination and utilization of internationalization guidelines for hospitals and nursing in Japan: evaluation study development with reference to the U.S. National Standards Evaluation Study for Culturally and Linguistically Appropriate Services. INC2023, November 2,3 in South Korea (査読あり・国際学会 (海外))
27. Amai, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., ..., Sakai, I. (2023, November 6-8). *GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program*. The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health, Doha, Qatar. (査読あり・国際学会 (海外))
28. 森内加奈恵, 西山育愛, 小川紗央里, 野崎章子(2023). 精神科病棟における神経性やせ症の家族療法(FBT)の有用性 ケースシリーズ, 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり、国内学会)
29. 原田結菜, 野崎章子, 森内加奈恵, 小早川里絵(2023)特定機能病院における性的多様性を有する患者への配慮に関する横断的研究, 第 36 回日本総合病院精神医学会総会 (査読あり、国内学会)
30. 齋藤伊織, 野崎章子, 森内加奈恵(2023). 日本の「マインドフルネス」の臨床実践に関するスコopingレビュー：看護の視点から. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会, (査読あり、国内学会)
31. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ, 飯野理恵, 平田慎之介, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子(2023): IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に 与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step1 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 37. (査読あり・国内学会)
32. 下井俊典, 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子(2023): 低年次 IPE プログラムにおける学習者のグループワークに対する自己評価 の変化—千葉大学亥鼻 IPE-Step1-2 の開講形式のパターン別分析. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 38. (査読あり・国内学会)
33. 孫佳茹, 下井俊典, 井出成美, 臼井いづみ, 関根祐子, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 笠井大, 酒井郁子(2023): IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に 与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step2 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 39. (査読あり・国内学会)
34. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 下井俊典, 笠井大, 酒井郁子(2023): 看護学部のカリキュラム改変が IPE 受講学生に与えた効果 ～学生の記述の分析から. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 40. (査読あり・国内学会)
35. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき, 朝比奈真由美, 山内かづ代, 関根祐子(2023). グローバル IPE”グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成”GRIP プログラム 2022 年度実践報告. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 70(査読あり・国内学会) (11/26)
36. 小島千恵美, 中濱洋子, 藤原紀子, 吉村健一, 玉木秀子, 矢吹みどり, 山本真由美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉(2024). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開

発—がん専門病院の看護師に対する実施評価有用性— 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)

37. 小島千恵美, 中濱洋子, 藤原 紀子, 吉村 健一, 玉木秀子, 矢吹みどり, 山本真由美, 野崎章子, 田代 志門, 藤原恵一, 小原泉(2024).がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムに参加したがん専門病院の看護師の学びの内容. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
38. 矢吹みどり, 玉木秀子, 山本真由美, 藤原紀子, 吉村健一, 中濱洋子, 小島千恵美, 野崎章子, 田代 志門, 藤原恵一, 小原 泉 (2024) . がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発—大学病院の看護師に対する実施評価. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
39. 山本真由美, 玉木秀子, 矢吹みどり, 野崎章子, 藤原紀子, 吉村健一, 中濱洋子, 小島千恵美, 田代志門, 藤原恵一, 小原 泉(2024). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムに参加した開発—大学病院の看護師の学びの内容. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
40. 天井響子, 江見桐子, 塚越菜緒子, 楊柳薈, Tan Yi Ning (2024). 「誰にも頼れない」と感じていた中高生が安心して頼れる友人を得る過程で何が起ったか複線径路等至性モデリングを用いた時系列の語り分析. 日本発達心理学会第 35 回大会. (査読あり・国内学会)
41. Saiki, M., Fujisawa, Y., Sakai, N., Tsukahara, N., Okamoto, Y., Sano, M., Kusunoki, J., Masujima, M., Sakai, I., Majima, T. (2024). Supports for Cancer Patients and Interprofessional Collaboration between Nurses, Physicians, and Pharmacists in Japan: A Descriptive Cross-Sectional Study

【シンポジウム・招聘講演】

42. 酒井郁子(2023.4.22). 柱 4-4「医療人の教育の現状と今後の在り方」特定行為研修は医療者教育の在り方にどのような影響を与えるのか.第 31 回日本医学会総会 2023 東京学術プログラム集. 82. (査読あり・国内学会)
43. 酒井郁子(2023.5.13). シンポジウム 9 地域の多職種に必要とされる連携するチカラ、その卓越性. 第 14 回日本プライマリ・ケア学術大会, 14, 111. (査読あり・国内学会)
44. 酒井郁子(2023). 日本老年看護学会第 28 回学術集会 会長講演「老年看護の Journey」オンデマンド配信, 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 45-46, 老年看護学 28(2), 5. (査読あり・国内学会)
45. 井出成美(2023.6.16). 日本老年看護学会学術集会教育セミナー いまさら聞けない IPE のこと 老年看護学との接点 看護学系教育機関における IPE の授業設計.
46. 藤沼康樹, 酒井郁子(2023.6.16). 教育セミナー4(対談)医療者が患者とともに老いるということ. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 119.
47. 酒井郁子, 森みさ子, 齋藤大輔, 山内典子(2023.7.2). パネルディスカッション 5 今求められる多職種連携. 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会.
48. Shimoi, T. (2023.7.27). Interprofessional Education in Japan. Semahat Arel Nursing Education Practice and Research Center (SANERC), Interprofessional Education Workshop.
49. 井出成美(2023.7.29). 学会連携企画 2 モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための多職種連携教育の設計 基礎教育で身につけるべき連携協働能力 IPE の哲学に基づく学習到達目標と学習方法. 第 55 回日本医学教育学会 .54(suppl), 147.
50. 酒井郁子(2023.8.3). 特別講演② これからの看護師に必要な多職種連携教育の進め方について. 第 35 回日本看護学校協議会学会. (査読あり・国内学会)

51. 天井響子(2023.9.15). 日本心理学会第 87 回大会公募シンポジウム: 援助要請研究の新たな方向性 悩みや問題を認識していない非援助要請者の研究と支援. (査読あり・国内学会) 日本心理学会第 87 回大会.
52. 孫佳茹(2023.9). 岩内町郷土館第三回企画展「岩内少年団下田豊松の功績」シンポジウム『少年団日本連盟設立「100 周年+1 年」企画—初代チーフ・スカウト下田豊松のスカウト運動と岩内少年団—』。「下田豊松と第一回世界ジャンボリー」
53. Amai, K. (2023.10.20). Adolescents' mental health problems, teacher support, and school adaptation: A qualitative analysis based on the Trajectory Equifinality Model. Washington State Association of School Psychologists 2023 Fall Conference, 2023 October. (招聘講演)
54. 酒井郁子(2023.11.24). 特別講演 3 これからの看護職の価値と働き方. 第 45 回日本手術医学会総会. 日本手術医学会誌, 44(Suppl), 53. (査読あり・国内学会)
55. 下井俊典(2023.11.26). 日本保健医療福祉連携 IPE パネルディスカッション 私が実践している多職種連携教育～うまくいっていること, 困っていること～. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 18
56. 酒井郁子(2023.11.29). 東総地区不眠症診療 WEB セミナー. 旭中央病院 しおさいホール.
57. 下井俊典(2023.12.9). 日本理学療法教育学会学術大会 教育講演 「学習科学を基にした多職種連携教育— IPE の実装例から考えるインストラクショナル・デザイナー」
58. 酒井郁子(2024.2.4). 日本プライマリ・ケア連合学会研修会 薬剤師と看護師の協働の推進 (オンライン)
59. 酒井郁子 (2024, 3. 5). 内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員会連合・看護系学会等社会保険連合 2) 看保連における 2024 年度 (令和 6 年度) 診療報酬・介護報酬の評価. (オンライン)
60. 酒井郁子 (2024, 3.8). 回復期リハビリテーション病棟協会第 43 回研究大会 教育講演 6 回復期リハ病棟におけるこれからの生活の再構築と自立支援(対面)

〔受賞 (国内・国外) 〕

61. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞 (国内) 看護学研究院附属専門職連携教育研究センターの活動 (R5.11/26)
62. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会ポスター賞 (国内) 原田結菜, 野崎章子, 森内加奈恵, 小早川里絵 (2023). 特定機能病院における性的多様性を有する患者への配慮に関する横断的研究
63. 令和 5 年度千葉大学医学部附属病院病院長表彰 金賞 (国内) 包括的せん妄ケアチーム (2024.3.18)



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の 3 つの学部からはじまった亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター 令和 5 年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究院専門職連携教育研究センター

編集者：酒井郁子、井出成美、野崎章子、下井俊典、孫佳茹、天井響子、富永嘉子、長谷川容佳、
佐野朋子、高野佳奈

発行日：令和 6 年（2024）年 3 月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めてくださいますよう、お願いいたします。